様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ６ 月　 ７ 日現在

機関番号：６３９０５
研究種目：基盤研究(A)（一般）
研究期間：2015～2019
課題番号：１５Ｈ０１８４６

研究課題名（和文）相互主体性の解析に基づく社会行動の神経基盤と発達過程の解明

研究課題名（英文）Elucidating the Neural Basis and Development of Social Behavior through the Analysis of Inter-subjectivity

研究代表者
定藤　規弘（Sadato, Norihiro）

生理学研究所・システム脳科学研究領域・教授

研究者番号：００２７３００３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　30,300,000円

研究成果の概要（和文）：社会能力の発達過程上重要な行動里標であり、自閉症で機能低下を示す共同注意の神経基盤が右下前頭葉－前部島を中心とするミラーシステムと心の理論ネットワークの協働であること、自閉症病態において社会的報酬としての社会的随伴性が重要であり、その神経基盤が心の理論ネットワークを形成する前内側前頭葉にあることを示した。自閉症の対人コミュニケーション障害に対してオキシトシンの経鼻投与が有効であること、乳児の向社会行動発現には社会的なかかわりが重要であることを示した。社会能力評価かかわり指標を開発し、乳児から成人期以降にいたるまで、生涯に渡り社会能力を計測できることを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義
自閉症における重要な発達指標行動である共同注意の神経基盤をネットワークレベルで解明するとともに、自閉症の社会報酬仮説を支持する所見を得た。さらにオキシトシンを用いた自閉症薬物治療法の有効性を示した。詳細な乳児実験観察研究に加えて、社会能力を連続的、多角的に評価する行動観察による定量計測手法を開発した。これらにより、今後健常人並びに自閉症群の、生涯に渡る社会能力発達過程を、生物学的基盤に基づいた行動定量法を用いて明らかにするための学術基盤が形成できた。

研究成果の概要（英文）：We found that the joint attention, critical behavioral milestone of the development of social cognition, is represented as the coordination of the mirror system and the mentalizing network with the right anterior insula-inferior frontal gyrus complex as a hub. Neural substrates of the social contingency detection was found to include the right anterior rostral medial prefrontal cortex, the part of the mentalizing network, which activity was attenuated in the ASD group. Nasal administration of oxytocin to ASD group was found to be effective for the dysfunction of the communication. Social engagement was found to be critical in the emergence of the prosocial behavior in infants whose understanding of the altruism preceded the action. Finally, we established quantitative behavioral measurement of the social capability in the ecological settings, allowing to quantify the life-long developmental processes.

研究分野：システム神経科学

キーワード：社会能力　機能的MRI　2個体同時計測　共同注意　心の理論　アイコンタクト　自閉症スペクトラム　オキシトシン

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

1. 研究開始当初の背景

対面コミュニケーションの本質としての「双方向性」と「同時性」は、2 個体間の社会的相互行動が観察と関与を同時に含むことに起因する、各個体へ還元され得ない特性である。2個体間相互作用を記述するための概念として subjectivity と inter-subjectivity が定義された（Trevarthen, 1979）。近年、鯨岡（2006）は、inter-subjectivity が3つの概念を含むことを指摘した。すなわち、（1）「あなた」の主観のある状態（「思い」としての、意図、感情等）が、「わたし」の主観の中にある感じとしてわかることとしての間主観性、（2）不特定多数の主観にあまねく抱かれている共通の観念や考えとしての共同主観性、（3）「思い」にしたがって行動する存在としての「わたし」という主体が、他の主体との関係において成り立つ（わたしたち）という理解に基づいて、相手に配慮しつつ自分の思いを貫くという対人関係としての相互主体性である。（1）は心理的共有、（2）は社会規範、（3）は（1）（2）を基盤とした実践的な社会的相互行動として捉えることが出来る。ある人が他者の意図や精神状態に影響を与える試みとしてのコミュニケーションの神経基盤を明らかにするために、2 個体同時計測 MRI 計測法を開発し、相互主体性を解析してきた。他区別から向社会行動に至る社会能力の発達過程において、行動里標として経時的に出現する要素過程の神経基盤を明らかにする過程で、社会的承認（褒め）が報酬となること、さらに自己から他者への働きかけの結果としての他者の反応（社会的随伴性）も報酬となりうることを見出した。この事から、「対面コミュニケーションは、自己の働きかけに対する相手の反応が報酬となるような強化学習系である」との仮説を発想した。

2. 研究の目的

本研究の目的は、社会能力の行動里標を、2個体の定量的行動解析と、2個体同時計測 MRI/ EEG を用いて検討し、乳幼児･学童縦断行動計測と組み合わせて上記の仮説を証明することである。

3. 研究の方法

行動･神経活動･解剖構造の計測、解析、及びそれらの統合を進め、より自然な社会的相互作用の神経活動･行動定量解析手法を確立して、2 個体脳相互作用をモデル化する。これを用いて、2個体相互作用時における神経ネットワークを評価することによって、注意、情動、意図の共有の神経基盤を明らかにする。さらに、社会能力の発達里標を、「相互主体性を介した強化学習」の観点から組織的に検討する。これに、簡易計測による疾患および発達諸相におけるネットワーク評価、自閉スペクトラム症（ASD）群での oxytocin 投与前後でのネットワーク評価とともに、乳幼児･学童縦断行動計測ネットワーク解析を組み合わせて共同注意から共感、心の理論を経て向社会行動へと展開する社会能力の学習過程における報酬系の関与を明らかにする。

4. 研究成果

（1）社会能力の神経基盤と ASD の病態

①個体脳内過程を含む 2 個体脳の相互作用（brain-to-brain coupling)を1つのネットワークモデルとして定量化することを目的として、課題関連活動の個体間同期に着目した解析手法を開発した。その結果、自閉症における重要な発達指標行動であるアイコンタクトと共同注意は、視線を介したリアルタイムの社会的相互作用として辺縁系ミラーシステムと小脳の両方が関与しており、注意共有は相互視線中のペアに固有な右 AIC の神経同期によって表され、保持されることが明らかとなった（Koike et al. 2019ab）。さらに言語を介した共同注意課題の神経基盤を描出したところ、AIC を含むミラーシステムと心の理論ネットワークに個体間同期が観察され、これらの独立に検討されてきた神経回路が、共同注意という社会的相互作用において協同して他者理解の基盤となること、そしてそのハブとしての右下前頭葉－前部島の重要性が明らかとなった。自閉症の神経回路レベルにおける病態解明において、右下前頭葉－前部島を中心としたネットワーク解析に進むべき、という今後の方向性が明確になった。【定藤･田邊】

②さらに、複数個体間の「協力」は、右TPJ に存在する機能的な下位領域の相互作用によって、全体として心の理論ネットワークと連関しつつ調整されていることが明らかとなった（Abe et al. 2019）。【定藤】

③ASD における社会動機仮説においては、社会的信号の低報酬性が自閉症者を社会的交流へと動機づけない理由であると想定している。健常成人において、自己の行動に随伴する他者の適切な反応（社会的随伴性、social contingency)が報酬となること、其の神経基盤として前部頭側内側前頭前野（arMPFC)が重要であることを示し（Sumiya et al. 2017)、この実験系を小坂らと協同して ASD 者に適用したところ、心の理論ネットワークの一部である arMPFC の反応減弱と社会的随伴性の報酬価値減弱が確認された。意思決定における社会的随伴性認知過程の神経基盤としての arMPFC の機能性を示すとともに、ASD における社会動機低下の神経基盤の一端を明らかにした（Sumiya et al. 2020)。【定藤】

④ASD の脳病態を定型発達（CTL）と比較して検討するため、安静時 fMRI を用いた脳領域間結合性に関する解析を行い、視床と前頭葉、側頭―頭頂領域、後部帯状回などを結ぶ 19 個の結合性が ASD で CTL より亢進していることを明らかにした。視床は感覚のフィルター機能があり、その機能障害が感覚過敏性など ASD に特異な臨床症状に関連している可能性があると考えられた。【飯高】

（2）ASD 薬物療法評価

経鼻オキシトシンスプレーは、自閉スペクトラム症（ASD）の社会性障害などの中核症状を軽減する効果があるとして近年注目されているが、適切な投与量、その効果判定、個人差が不明であった。我々は、ASD がある青年期の方 60 名に経鼻オキシトシンスプレーを 12 週間投与するランダム化二重盲検試験を行い、男性 ASD 者はオキシトシン点鼻の実際使用量（21 国際単位/日）より多い方が効果を認めやすいことを明らかにし、点鼻用量が少ないときは個人の遺伝的背景であるオキシトシン受容体遺伝子多型(rs6791619)の塩基によって効果の程度が異なることを報告した（Kosaka et al., Transl Psy, 2016）。投与前後による resting-state fMRI の fALFF 解析では、insula 活動の変化を認めた（Kosaka et al., 2016)。次に、4 施設による多施設臨床試験におけるランダム化二重盲検試験を行った結果、オキシトシン投与による変化の客観的な指標である血中濃度の上昇はオキシトシンの効果と関連するという結果を認めた。さらに、常同行動と限定的興味や、視線の計測で評価した対人コミュニケーションの障害の客観的な指標については、オキシトシンの投与で改善していた（Yamasue et al., Mol Psy, in press）。さらに、過去の臨床試験の結果から、オキシトシン経鼻スプレーの有効性を投与方法（単回投与と反復投与）の違いによる検証をした。被験者による対人的なやりとりを行う様子を撮影した動画から、表情の定量解析を行い、ASD 中核症状を数値化して客観的に評価できる方法を開発し、有効性を検証した。ASD 群の表情は、対人的なやりとりの際に中立表情が目立つ上に変化しにくく、笑顔も表れづらいという特徴があるが、オキシトシン投与により中立表情の変化のしにくさが緩和された。さらに、このオキシトシンによる改善効果は、投与開始から 2 週間後には効果が比較的強く、4 週後から 6 週後には弱まったが、投与終了してから 2 週間経った時点では再び効果が強く表れ、改善効果は時間と共に変化することが分かった（Owada et al., Brain, 2019）。【小阪・岡沢】

（3）乳児実験的行動観察による向社会行動の起源

① 乳児における共同注意と心拍

ナチュラル・ペダゴジー理論によると、乳児の視線追従は、明示的意図的手がかり(ostensive cue)によるコミュニカティブな意図の理解に基づくとされる。9～10 ヵ月児を対象に、視線追従の生起と心拍との関連を検討した。その結果、アイコンタクトで心拍数が増加し、アイコンタクト中の心拍数の増加は、乳児の後の視線追従行動の生起を予測することがわかった。乳児の視線追従行動がコミュニカティブな手がかりと生理学的な覚醒の両方に依拠することを示す。【板倉】

② 公平性知覚

ヒトは，不公平な資源の分配に対しては高い感受性を持っており、限られた資源を公平に分配することは向社会行動と密接に関係する。選好注視法を適用することにより、15 ヵ月児は他者の援助行為を観察中に、その他者が公平に分配するか不公平に分配するかを予測していることを明らかにした。このことは向社会行動の起源が乳児期にさかのぼることを示す。【板倉】

③ 向社会的行動の理解から向社会的行為の実践

乳児の援助行動は、しばしば利他的行動として解釈されてきたが、その背後にある認知的および動機の機序については明らかになっていない。1 歳未満の乳児が、助けを必要としている他者を認識し、さらに生後 2 年目に生起する実際の援助行動をつなぐ要因を検討したところ、援助行動の理解と実際の援助行動の出現のリンクは、運動発達と social engagement が関与していることが示された。【板倉】

（4）行動観察による社会能力評価かかわり指標の妥当性検証

① かかわり指標の拡張と妥当性検証

生涯発達と社会とのかかわりの観点から、社会能力を連続的、多角的に評価する行動観察による社会能力評価かかわり指標の妥当性検証を行い、学童期、思春期を対象とした IRSC50 項目版の基準関連妥当性を確認した。続いて、生涯発達の観点から、成人期以降における向社会行動の特性について、社会能力評価との関連を検討した。結果、かかわり指標を用いた社会能力評価と、自記式質問紙による社会とのかかわり行動は有意な関連を認めた。より自然な社会的相互作用の行動解析手法として、かかわり指標の高齢期への適用に関する妥当性が確認された。【安梅】

② コホート研究を用いた社会能力評価の経年的な妥当性

コホート研究を用い、社会環境とのかかわりの生涯発達に及ぼす影響を経年的に測定したところ、学童期における社会環境とのかかわりは青年期のストレス、主観的幸福感と関連していた。また経年データを用いて、社会とのかかわり指標を作成し、学童期および思春期の向社会行動および健康関連 QOL との関連を検討した。社会とのかかわり得点が高いほど、思春期の向社会行動、総合的な QOL 得点および、自尊感情、友達関係、学校生活の領域得点が高い傾向が示された。この結果は、友人とのかかわりなど他者とのかかわりが、学童期および思春期における向社会行動および生活の質に影響する重要な要因の一つであることを示唆している。さらに、20 歳から 59 歳を対象に、2014 年および 2017 年に実施した自記式質問紙調査のデータより、社会とのかかわりが 3 年後の精神的健康におよぼす影響を検討した。社会のかかわりのうち，生活の主体性領域および他者とのかかわり領域と精神的健康に有意な関連を認め、日常生活における主体性の高さや、他者とのかかわりの豊かさが、経年的なストレス軽減につながる可能性が示唆された。経年分析の結果から、社会とのかかわり評価の経年的な妥当性が示唆された。【安梅】

③間主観性の定量解析に向けた行動解析手法の開発

社会とのかかわり状況は社会能力により創発されるものである。本研究では、ライフコースアプローチを用いて周産期から青年期、老年期に至る各世代について、コホートデータを活用した経年分析を実施し、環境と向社会行動、社会適応および精神的健康との関連について検討を行った。本研究成果

より、生涯発達の様々なステージにおいて、社会能力評価かかわり指標を活用可能であること、また社会能力評価を用い社会とのかかわりを促進することで生涯にわたる健やかな発達と健康保持に有効である可能性が示唆された。経年的な社会能力評価による支援の妥当性が示された。【安梅】

＜引用文献＞ 業績以外の引用文献を列記した。

Trevarthen C (1979) Communication and cooperation in early infancy. In: Before Speech: The Beginning of Human Communication (Bullowa M, ed), pp 321–347. Cambridge University Press.

鯨岡峻 (2006) ひとがひとをわかるということ 間主観性と相互主体性. ミネルヴァ書房

下記本文にて引用した業績を列記した。

① Koike T, Tanabe HC, Adachi-Abe S, Okazaki S, Nakagawa E, Sasaki AT, Shimada K, Sugawara SK, Takahashi HK, Yoshihara K, Sadato N, Role of the right anterior insular cortex in joint attention-related identification with a partner, Social Cognitive and Affective Neuroscience, Vol. 14, 2019a, pp. 1131-1145. 10.1093/scan/nsz087

② Koike T, Sumiya M, Nakagawa E, Okazaki S, Sadato N, What makes eye contact special? Neural substrates of on-Line mutual eye-gaze: A hyperscanning fMRI study., eNeuro, Vol. 6, 2019b, pp. pii: ENEURO.0284-18.2019. 10.1523/ENEURO.0284-18.2019

③ Abe MO, Koike T, Okazaki S, Sugawara SK, Takahashi K, Watanabe K, Sadato N, Neural correlates of online cooperation during joint force production., Neuroimage, Vol. 191, 2019, pp. 150-161. 10.1016/j.neuroimage.2019.02.003.

④ Sumiya M, Koike T, Okazaki S, Kitada R, Sadato N, Brain networks of social action-outcome contingency: The role of the ventral striatum in integrating signals from the sensory cortex and medial prefrontal cortex., Neurosci Res, Vol. 123, 2017, pp. 43-54. 10.1016/j.neures.2017.04.015.

⑤ Sumiya M, Okamoto Y, Koike T, Tanigawa T, Okazawa H, Kosaka H, Sadato N, Attenuated activation of the anterior rostral medial prefrontal cortex on self-relevant social reward processing in individuals with autism spectrum disorder., Neuroimage Clin, Vol. 26, 2020, pp. 102249. 10.1016/j.nicl.2020.102249

⑥ Kosaka H, Okamoto Y, Munesue T, Yamasue H, Inohara K, Fujioka T, Anme T, Orisaka M, Ishitobi M, Jung M, Fujisawa TX, Tanaka S, Arai S, Asano M, Saito DN, Sadato N, Tomoda A, Omori M, Sato M, Okazawa H, Higashida H, Wada Y., Oxytocin efficacy is modulated by dosage and oxytocin receptor genotype in young adults with high-functioning autism: a 24-week randomized clinical trial., Translational Psychiatry, Vol. 6, 2016, pp. e872. 10.1038/tp.2016.152

⑦ Yamasue H, Okada T, Munesue T, Kuroda M, Fujioka T, Uno Y, Matsumoto K, Kuwabara H, Mori D, Okamoto Y, Yoshimura Y, Kawakubo Y, Arioka Y, Kojima M, Yuhi T, Owada k, Yassin W, Kushima I, Benner S, Ogawa N, Eriguchi Y, Kawano N, Uemura Y, Yamamoto M, Kano Y, Kasai K, Higashida H, Ozaki N, Kosaka H., Effect of intranasal oxytocin on the core social symptoms of autism spectrum disorder: a randomized clinical trial., Mol Psychiatry. (in press). 10.1038/s41380-018-0097-2.

⑧ Owada K, Okada T, Munesue T, Kuroda M, Fujioka T, Uno Y, Matsumoto K, Kuwabara H, Mori D, Okamoto Y, Yoshimura Y, Kawakubo Y, Arioka Y, Kojima M, Yuhi T, Yassin W, Kushima I, Benner S, Ogawa N, Eriguchi Y, Kawano N, Uemura Y, Yamamoto M, Kano Y, Kasai K, Higashida H, Ozaki N, Kosaka H, Yamasue H., Quantitative facial expression analysis revealed the efficacy and time-course of oxytocin in autism, Brain, Vol. 142, 2019, pp. 2127-2136. 10.1093/brain/awz126.

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計157件（うち査読付論文　145件／うち国際共著　44件／うちオープンアクセス　112件）

１．著者名 Yamasue H, Okada T, Munesue T, Kuroda M, Fujioka T, Uno Y, Matsumoto K, Kuwabara H, Mori D, Okamoto Y, Yoshimura Y, Kawakubo Y, Arioka Y, Kojima M, Yuhi T, Owada k, Yassin W, Kushima I, Benner S, Ogawa N, Eriguchi Y, Kawano N, Uemura Y, Yamamoto M, Kano Y, Kasai K, Higashida H, Ozaki N, Kosaka H.	４．巻 in press
２．論文標題 Effect of intranasal oxytocin on the core social symptoms of autism spectrum disorder: a randomized clinical trial	５．発行年 2020年
３．雑誌名 Molecular Psychiatry	６．最初と最後の頁 ―
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1038/s41380-018-0097-2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 ―

１．著者名 Fujioka T, Tsuchiya KJ, Saito M, Hirano Y, Matsuo M, Kikuchi M, Maegaki Y, Choi D, Kato S, Yoshida T, Yoshimura Y, Ooba S, Mizuno Y, Takiguchi S, Matsuzaki H, Tomoda A, Shudo K, Ninomiya M, Katayama T, Kosaka H	４．巻 11
２．論文標題 Developmental changes in attention to social information from childhood to adolescence in autism spectrum disorders: a comparative study	５．発行年 2020年
３．雑誌名 Molecular Autism	６．最初と最後の頁 ―
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1186/s13229-020-00321-w	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 ―

１．著者名 厚澤 博美，田中 笑子，渡邊 久実， 渡邉 多恵子，安梅 勅江	４．巻 26
２．論文標題 成人期の社会とのかかわりと精神的健康の関連：年齢階層別の検討	５．発行年 2020年
３．雑誌名 日本保健福祉学会誌	６．最初と最後の頁 3-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 ―

１．著者名 Okazawa Hidehiko、Ikawa Masamichi、Jung Minyoung、Maruyama Rikiya、Tsujikawa Tetsuya、Mori Tetsuya、Rahman Mahmudur G. M.、Makino Akira、Kiyono Yasushi、Kosaka Hirotaka	４．巻 10
２．論文標題 Multimodal analysis using [11C]PiB-PET/MRI for functional evaluation of patients with Alzheimer’s disease	５．発行年 2020年
３．雑誌名 EJNMMI Research	６．最初と最後の頁 30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1186/s13550-020-00619-z	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Yamamoto Hiroki、Sato Atsushi、Itakura Shoji	4．巻 10
2．論文標題 Transition From Crawling to Walking Changes Gaze Communication Space in Everyday Infant-Parent Interaction	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Frontiers in Psychology	6．最初と最後の頁 2987
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3389/fpsyg.2019.02987	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Haensel Jennifer X.、Danvers Matthew、Ishikawa Mitsuhiko、Itakura Shoji、Tucciarelli Raffaele、Smith Tim J.、Senju Atsushi	4．巻 10
2．論文標題 Culture modulates face scanning during dyadic social interactions	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Scientific Reports	6．最初と最後の頁 1958
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1038/s41598-020-58802-0	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Sumiya Motofumi、Okamoto Yuko、Koike Takahiko、Tanigawa Tsubasa、Okazawa Hidehiko、Kosaka Hirotaka、Sadato Norihiro	4．巻 26
2．論文標題 Attenuated activation of the anterior rostral medial prefrontal cortex on self-relevant social reward processing in individuals with autism spectrum disorder	5．発行年 2020年
3．雑誌名 NeuroImage: Clinical	6．最初と最後の頁 102249－102249
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.nicl.2020.102249	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Okamoto Yuko、Kitada Ryo、Kochiyama Takanori、Naruse Hiroaki、Makita Kai、Miyahara Motohide、Okazawa Hidehiko、Kosaka Hirotaka	4．巻 in press
2．論文標題 Visual Body Part Representation in the Lateral Occipitotemporal Cortex in Children/Adolescents and Adults	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Cerebral Cortex Communications	6．最初と最後の頁 －
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1093/texcom/tgaa007	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Agil Hilda M.、Watanabe Kumi、Tanaka Emiko、Afiyanti Yati、Anme Tokie	4．巻 23
2．論文標題 Factors influencing Indonesian male partners’ support in the postpartum period	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Makara Journal of Health Research	6．最初と最後の頁 82-89
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.7454/msk.v23i2.10636	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Watanabe K.、Tanaka E.、Watanabe T.、Tomisaki E.、Ito S.、Okumura R.、Anme T.	4．巻 179
2．論文標題 Social relationships and functional status among Japanese elderly adults living in a suburban area	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Public Health	6．最初と最後の頁 84－89
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.puhe.2019.09.016	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 安梅勅江	4．巻 41
2．論文標題 高齢者のエンパワメント理論と実践活用	5．発行年 2019年
3．雑誌名 日本老年社会科学	6．最初と最後の頁 337-341
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Watanabe Noriya、Bhanji Jamil P.、Tanabe Hiroki C.、Delgado Mauricio R.	4．巻 202
2．論文標題 Ventromedial prefrontal cortex contributes to performance success by controlling reward-driven arousal representation in amygdala	5．発行年 2019年
3．雑誌名 NeuroImage	6．最初と最後の頁 116136－116136
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.neuroimage.2019.116136	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Bagarinao E, Watanabe H, Maesawa S, Mori D, Hara K, Kawabata K, Yoneyama N, Ohdake R, Imai K, Masuda M, Yokoi T, Ogura A, Taoka T, Koyama S, Tanabe HC, Katsuno M, Wakabayashi T, Kuzuya M, Ozaki N, Hoshiyama M, Isoda H, Naganawa S, Sobue G	4．巻 9
2．論文標題 Reorganization of brain networks and its association with general cognitive performance over the adult lifespan	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Scientific Reports	6．最初と最後の頁 11352
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1038/s41598-019-47922-x	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Koike Takahiko、Tanabe Hiroki C、Adachi-Abe Saori、Okazaki Shuntaro、Nakagawa Eri、Sasaki Akihiro T、Shimada Koji、Sugawara Sho K、Takahashi Haruka K、Yoshihara Kazufumi、Sadato Norihiro	4．巻 14
2．論文標題 Role of the right anterior insular cortex in joint attention-related identification with a partner	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Social Cognitive and Affective Neuroscience	6．最初と最後の頁 1131－1145
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1093/scan/nsz087	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 田邊宏樹	4．巻 20
2．論文標題 小脳と高次認知機能	5．発行年 2019年
3．雑誌名 ことばの科学研究	6．最初と最後の頁 4-8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Amemiya Kaoru、Morita Tomoyo、Saito Daisuke N.、Ban Midori、Shimada Koji、Okamoto Yuko、Kosaka Hirotaka、Okazawa Hidehiko、Asada Minoru、Naito Eiichi	4．巻 224
2．論文標題 Local-to-distant development of the cerebrocerebellar sensorimotor network in the typically developing human brain: a functional and diffusion MRI study	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Brain Structure and Function	6．最初と最後の頁 1359～1375
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s00429-018-01821-5	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Komeda Hidetsugu、Kosaka Hirotaka、Fujioka Toru、Jung Minyoung、Okazawa Hidehiko	4．巻 10
2．論文標題 Do Individuals With Autism Spectrum Disorders Help Other People With Autism Spectrum Disorders? An Investigation of Empathy and Helping Motivation in Adults With Autism Spectrum Disorder	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Frontiers in Psychiatry	6．最初と最後の頁 376
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3389/fpsyt.2019.00376	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 岡沢秀彦	4．巻 270
2．論文標題 脳血管障害のPET、SPECT	5．発行年 2019年
3．雑誌名 医学のあゆみ	6．最初と最後の頁 714-719
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Jung Minyoung、Mizuno Yoshifumi、Fujisawa Takashi X、Takiguchi Shinichiro、Kong Jian、Kosaka Hirotaka、Tomoda Akemi	4．巻 29
2．論文標題 The Effects of COMT Polymorphism on Cortical Thickness and Surface Area Abnormalities in Children with ADHD	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Cerebral Cortex	6．最初と最後の頁 3902－3911
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1093/cercor/bhy269	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 Jung Minyoung、Mody Maria、Fujioka Toru、Kimura Yukari、Okazawa Hidehiko、Kosaka Hirotaka	4．巻 13
2．論文標題 Sex Differences in White Matter Pathways Related to Language Ability	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Frontiers in Neuroscience	6．最初と最後の頁 898
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3389/fnins.2019.00898	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Owada K, Okada T, Munesue T, Kuroda M, Fujioka T, Uno Y, Matsumoto K, Kuwabara H, Mori D, Okamoto Y, Yoshimura Y, Kawakubo Y, Arioka Y, Kojima M, Yuhi T, Yassin W, Kushima I, Benner S, Ogawa N, Eriguchi Y, Kawano N, Uemura Y, Yamamoto M, Kano Y, Kasai K, Higashida H, Ozaki N, Kosaka H, Yamasue H.	4．巻 142
2．論文標題 Quantitative facial expression analysis revealed the efficacy and time course of oxytocin in autism	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Brain	6．最初と最後の頁 2127－2136
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1093/brain/awz126	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Komeda Hidetsugu、Kosaka Hirotaka、Fujioka Toru、Jung Minyoung、Okazawa Hidehiko	4．巻 10
2．論文標題 Do Individuals With Autism Spectrum Disorders Help Other People With Autism Spectrum Disorders? An Investigation of Empathy and Helping Motivation in Adults With Autism Spectrum Disorder	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Frontiers in Psychiatry	6．最初と最後の頁 376
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3389/fpsyt.2019.00376	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Abe Masaki O.、Koike Takahiko、Okazaki Shuntaro、Sugawara Sho K.、Takahashi Kohske、Watanabe Katsumi、Sadato Norihiro	4．巻 191
2．論文標題 Neural correlates of online cooperation during joint force production	5．発行年 2019年
3．雑誌名 NeuroImage	6．最初と最後の頁 150～161
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.neuroimage.2019.02.003	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Brooks Jeffrey A.、Chikazoe Junichi、Sadato Norihiro、Freeman Jonathan B.	4．巻 116
2．論文標題 The neural representation of facial-emotion categories reflects conceptual structure	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Proceedings of the National Academy of Sciences	6．最初と最後の頁 15861～15870
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1073/pnas.1816408116	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Kitada Ryo、Doizaki Ryuichi、Kwon Jinhwan、Tanigawa Tsubasa、Nakagawa Eri、Kochiyama Takanori、Kajimoto Hiroyuki、Sakamoto Maki、Sadato Norihiro	4．巻 197
2．論文標題 Brain networks underlying tactile softness perception: A functional magnetic resonance imaging study	5．発行年 2019年
3．雑誌名 NeuroImage	6．最初と最後の頁 156～166
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.neuroimage.2019.04.044	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Maruyama Shuki、Fukunaga Masaki、Fautz Hans-Peter、Heidemann Robin、Sadato Norihiro	4．巻 9
2．論文標題 Comparison of 3T and 7T MRI for the visualization of globus pallidus sub-segments	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Scientific Reports	6．最初と最後の頁 18357
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1038/s41598-019-54880-x	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Mochizuki Hideki、Hernandez Loren E.、Yosipovitch Gil、Sadato Norihiro、Kakigi Ryusuke	4．巻 10
2．論文標題 The Functional Network Processing Acute Electrical Itch Stimuli in Humans	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Frontiers in Physiology	6．最初と最後の頁 555
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3389/fphys.2019.00555	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Ikeda Ayaka、Kobayashi Tessei、Itakura Shoji	4．巻 55
2．論文標題 Sensitivity to register selection errors amongst 5- and 7-year-old children.	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Developmental Psychology	6．最初と最後の頁 1380～1388
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1037/dev0000725	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Park Yun-hee、Itakura Shoji	4．巻 48
2．論文標題 Causal Information Over Facial Expression: Modulation of Facial Expression Processing by Congruency and Causal Factor of the Linguistic Cues in 5-Year-Old Japanese Children	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Journal of Psycholinguistic Research	6．最初と最後の頁 987～1004
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://doi.org/10.1007/s10936-019-09643-0	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 Ishikawa Mitsuhiko、Yoshimura Mina、Sato Hiroki、Itakura Shoji	4．巻 20
2．論文標題 Effects of attentional behaviours on infant visual preferences and object choice	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Cognitive Processing	6．最初と最後の頁 317～324
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://doi.org/10.1007/s10339-019-00918-x	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Yamamoto Hiroki、Sato Atsushi、Itakura Shoji	4．巻 9
2．論文標題 Eye tracking in an everyday environment reveals the interpersonal distance that affords infant-parent gaze communication	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Scientific Reports	6．最初と最後の頁 10352
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://doi.org/10.1038/s41598-019-46650-6	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Moriguchi Yusuke、Kanakogi Yasuhiro、Okumura Yuko、Shinohara Ikuko、Itakura Shoji、Shimojo Shinsuke	4．巻 5
2．論文標題 Imaginary agents exist perceptually for children but not for adults	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Palgrave Communications	6．最初と最後の頁 133
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://doi.org/10.1057/s41599-019-0350-6	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Iidaka T, Kogata T, Mano Y, Komeda H	4．巻 10
2．論文標題 Thalamocortical Hyperconnectivity and Amygdala-Cortical Hypoconnectivity in Male Patients With Autism Spectrum Disorder	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Front. Psychiatry	6．最初と最後の頁 252
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3389/fpsyt.2019.00252	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Kawamichi H, Sugawara SK, Hamano YH, Makita K, Kochiyama T, Kikuchi Y, Ogino Y, Saito S, and Sadato N	4．巻 14
2．論文標題 Prosocial behavior toward estranged persons modulates the interaction between midline cortical structures and the reward system.	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Social Neuroscience	6．最初と最後の頁 618-630
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/17470919.2018.1553797	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Numata Takashi、Sato Hiroki、Asa Yasuhiro、Koike Takahiko、Miyata Kohei、Nakagawa Eri、Sumiya Motofumi、Sadato Norihiro	4．巻 10
2．論文標題 Achieving affective human?virtual agent communication by enabling virtual agents to imitate positive expressions	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Scientific Reports	6．最初と最後の頁 5977
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1038/s41598-020-62870-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Etsuko Tomisaki, Emiko Tanaka, Taeko Watanabe, Ryoji Shinohara, Maki Hirano, Yoko Onda, Yukiko Mochizuki, Yuko Yato, Noriko Yamakawa, Tokie Anme	4．巻 6
2．論文標題 The relationship between the development of social competence and sleep in infants: a longitudinal study	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Child and Adolescent Psychiatry and Mental health	6．最初と最後の頁 52-57
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1186/s13034-018-0258-8	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Okamoto Y, Kitada R, Miyahara M, Kochiyama T, Naruse H, Sadato N, Okazawa H, Kosaka H.	4．巻 19
2．論文標題 Altered perspective-dependent brain activation while viewing hands and associated imitation difficulties in individuals with autism spectrum disorder.	5．発行年 2018年
3．雑誌名 NeuroImage-Clinical	6．最初と最後の頁 384-395
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.nicl.2018.04.030	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Morita T, Saito DN, Ban M, Shimada K, Okamoto Y, Kosaka H, Okazawa H, Asada M, Naito E.	4．巻 28
2．論文標題 Self-face recognition begins to share active brain region in right inferior parietal lobule with proprioceptive illusion during adolescence.	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Cerebral Cortex	6．最初と最後の頁 1532-1548
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1093/cercor/bhy027	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Fujisawa TX, Shimada K, Takiguchi S, Mizushima S, Kosaka H, Okazawa H, Teicher MH, Tomoda A.	4．巻 20
2．論文標題 Type and timing of childhood maltreatment and reduced visual cortex volume in children and adolescents with reactive attachment disorder.	5．発行年 2018年
3．雑誌名 NeuroImage-Clinical	6．最初と最後の頁 216-221
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.nicl.2018.07.018. eCollection 2018	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Yoshimura Y, Kikuchi M, Hiraishi H, Hasegawa C, Hirosawa T, Takahashi T, Munesue T, Kosaka H, Higashida H, Minabe Y.	4．巻 281
2．論文標題 Longitudinal changes in the mismatch field evoked by an empathic voice reflect changes in the empathy quotient in autism spectrum disorder.	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Psychiatry Res Neuroimaging	6．最初と最後の頁 117-122
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.pscychresns.2018.05.003	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Kosaka Hirotaka、Fujioka Toru、Jung Minyoung	4．巻 269
2．論文標題 Symptoms in individuals with adult-onset ADHD are masked during childhood	5．発行年 2018年
3．雑誌名 European Archives of Psychiatry and Clinical Neuroscience	6．最初と最後の頁 753～755
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s00406-018-0893-3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Higashida Haruhiro、Munesue Toshio、Kosaka Hirotaka、Yamasue Hidenori、Yokoyama Shigeru、Kikuchi Mitsuru	4．巻 7
2．論文標題 Social Interaction Improved by Oxytocin in the Subclass of Autism with Comorbid Intellectual Disabilities	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Diseases	6．最初と最後の頁 24～24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3390/diseases7010024	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Inui Y, Ichihara T, Uno M, Ishiguro M, Ito K, Kato K, Sakuma H, Okazawa H, Toyama H.	4．巻 32
2．論文標題 CT-based attenuation correction and resolution compensation for I-123 IMP brain SPECT normal database: a multicenter phantom study.	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Ann Nucl Med	6．最初と最後の頁 311-318
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s12149-018-1248-x	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Okazawa H, Higashino Y, Tetsuya Tsujikawa T, Arishima H, Mori T, Kiyono Y, Kimura H, Kikuta K.	4．巻 105
2．論文標題 Noninvasive method for measurement of cerebral blood flow using O-15 water PET/MRI with ASL correlation.	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Eur J Radiol	6．最初と最後の頁 102-109
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.ejrad.2018.05.033	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Ikawa M, Kimura, H, Kitazaki Y, Sugimoto K, Matsunaga A, Hayashi K, Yamamura O, Tsujikawa T, Hamano T, Yoneda M, Okazawa H, Nakamoto Y.	4．巻 394
2．論文標題 Arterial spin labeling MR imaging for the clinical detection of cerebellar hypoperfusion in patients with spinocerebellar degeneration.	5．発行年 2018年
3．雑誌名 J Neurol Sci	6．最初と最後の頁 58-62
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.jns.2018.09.007	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Rahman MGM, Islam MM, Tsujikawa T, Kiyono Y, Okazawa H	4．巻 33
2．論文標題 Count-based method for specific binding ratio calculation in [I-123]FP-CIT SPECT analysis.	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Ann Nucl Med	6．最初と最後の頁 14-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s12149-018-1297-1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Amemiya Kaoru、Morita Tomoyo、Saito Daisuke N.、Ban Midori、Shimada Koji、Okamoto Yuko、Kosaka Hirotaka、Okazawa Hidehiko、Asada Minoru、Naito Eiichi	4．巻 224
2．論文標題 Local-to-distant development of the cerebrocerebellar sensorimotor network in the typically developing human brain: a functional and diffusion MRI study	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Brain Structure and Function	6．最初と最後の頁 1359～1375
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s00429-018-01821-5	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Okazawa H, Tsujikawa T, Higashino Y, Kikuta K, Mori T, Makino A, Kiyono Y	4．巻 9
2．論文標題 No significant difference found in PET/MRI CBF values reconstructed with CT-atlas-based and ZTE MR attenuation correction.	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Eur J Nucl Med Mol Img Res	6．最初と最後の頁 26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1186/s13550-019-0494-9	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 井川正道、岡沢秀彦、米田誠	4．巻 71
2．論文標題 酸化ストレスイメージング：ミトコンドリア病、神経変性疾患への応用	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Brain Nerve	6．最初と最後の頁 161-166
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11477/mf.1416201236	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 田邊宏樹	4．巻 34
2．論文標題 脳機能イメージングとモデル構築 －Dynamic Causal Modelingを中心に－	5．発行年 2018年
3．雑誌名 神経心理学	6．最初と最後の頁 192-198
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Aizawa Yuka、Harada Tokiko、Nakata Hiroki、Tsunakawa Mizuki、Sadato Norihiro、Nagashima Kei	4．巻 6
2．論文標題 Assessment of brain mechanisms involved in the processes of thermal sensation, pleasantness/unpleasantness, and evaluation	5．発行年 2019年
3．雑誌名 IBRO Reports	6．最初と最後の頁 54～63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.ibror.2019.01.003	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Kochiyama Takanori、Ogihara Naomichi、Tanabe Hiroki C.、Kondo Osamu、Amano Hideki、Hasegawa Kunihiro、Suzuki Hiromasa、Ponce de Leon Marcia S.、Zollikofer Christoph P. E.、Bastir Markus、Stringer Chris、Sadato Norihiro、Akazawa Takeru	4．巻 8
2．論文標題 Reconstructing the Neanderthal brain using computational anatomy	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Scientific Reports	6．最初と最後の頁 6296
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1038/s41598-018-24331-0	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Nakamura Tagiru、Matsui Tomoko、Utsumi Akira、Yamazaki Mika、Makita Kai、Harada Tokiko、Tanabe Hiroki C.、Sadato Norihiro	4．巻 13
2．論文標題 The role of the amygdala in incongruity resolution: the case of humor comprehension	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Social Neuroscience	6．最初と最後の頁 553～565
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/17470919.2017.1365760	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Kawamichi Hiroaki、Sugawara Sho K.、Hamano Yuki H.、Makita Kai、Kochiyama Takanori、Kikuchi Yoshiaki、Ogino Yuichi、Saito Shigeru、Sadato Norihiro	4．巻 14
2．論文標題 Prosocial behavior toward estranged persons modulates the interaction between midline cortical structures and the reward system	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Social Neuroscience	6．最初と最後の頁 618～630
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/17470919.2018.1553797	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Nakamura Nozomu H.、Fukunaga Masaki、Oku Yoshitaka	4．巻 265
2．論文標題 Respiratory fluctuations in pupil diameter are not maintained during cognitive tasks	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Respiratory Physiology & Neurobiology	6．最初と最後の頁 68～75
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.resp.2018.07.005	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Rajaei Nader、Aoki Naoya、Takahashi Haruka K.、Miyaoka Tetsu、Kochiyama Takanori、Ohka Masahiro、Sadato Norihiro、Kitada Ryo	4．巻 39
2．論文標題 Brain networks underlying conscious tactile perception of textures as revealed using the velvet hand illusion	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Human Brain Mapping	6．最初と最後の頁 4787～4801
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1002/hbm.24323	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Sasaki Akihiro T.、Okamoto Yuko、Kochiyama Takanori、Kitada Ryo、Sadato Norihiro	4．巻 108
2．論文標題 Distinct sensitivities of the lateral prefrontal cortex and extrastriate body area to contingency between executed and observed actions	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Cortex	6．最初と最後の頁 234～251
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） doi.org/10.1016/j.cortex.2018.08.003	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Koike Takahiko、Sumiya Motofumi、Nakagawa Eri、Okazaki Shuntaro、Sadato Norihiro	4．巻 6
2．論文標題 What Makes Eye Contact Special? Neural Substrates of On-Line Mutual Eye-Gaze: A Hyperscanning fMRI Study	5．発行年 2019年
3．雑誌名 eneuro	6．最初と最後の頁 0284～318
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1523/ENEURO.0284-18.2019	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Ishikawa Mitsuhiko、Itakura Shoji	4．巻 286
2．論文標題 Physiological arousal predicts gaze following in infants	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Proceedings of the Royal Society B: Biological Sciences	6．最初と最後の頁 20182746
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） doi.org/10.1098/rspb.2018.2746	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Ishikawa, M., & Itakura, S.	4．巻 9
2．論文標題 Observing others’ gaze direction affects infants’ preference for looking at gazing- or gazed-at faces.	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Frontiers in Psychology	6．最初と最後の頁 1503
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3389/fpsyg.2018.01503	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Koaster, M. Itakura, S., Omori, M., & Kartner, J.	4．巻 e12804
2．論文標題 From understanding others' needs to prosocial action: Motor and social abilities promote infants' helping	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Developmental Science	6．最初と最後の頁 43480
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） doi.org/10.1111/desc.12804	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 Di Dio C.、Manzi F.、Itakura S.、Kanda T.、Ishiguro H.、Massaro D.、Marchetti A.	4．巻 -
2．論文標題 It Does Not Matter Who You Are: Fairness in Pre-schoolers Interacting with Human and Robotic Partners	5．発行年 2019年
3．雑誌名 International Journal of Social Robotics	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s12369-019-00528-9	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 Marchetti, A., Manzi, F., Itakura, S., and Massaro, D.	4．巻 226
2．論文標題 Theory of Mind and Humanoid Robots From a Lifespan Perspective	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Zeitschrift fur Psychologie	6．最初と最後の頁 98-109
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） doi.org/10.1027/2151-2604/a000326	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 Miura Naoki、Tanabe Hiroki C.、Sasaki Akihiro T.、Harada Tokiko、Sadato Norihiro	4．巻 352
2．論文標題 Neural evidence for the intrinsic value of action as motivation for behavior	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Neuroscience.	6．最初と最後の頁 190～203
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.neuroscience.2017.03.064	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Nakamura Tagiru、Matsui Tomoko、Utsumi Akira、Yamazaki Mika、Makita Kai、Harada Tokiko、Tanabe Hiroki C.、Sadato Norihiro	4．巻 21
2．論文標題 The role of the amygdala in incongruity resolution: the case of humor comprehension	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Social Neuroscience	6．最初と最後の頁 1～13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/17470919.2017.1365760	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Okamoto Yuko、Kosaka Hirotaka、Kitada Ryo、Seki Ayumi、Tanabe Hiroki C.、Hayashi Masamichi J.、Kochiyama Takanori、Saito Daisuke N.、Yanaka Hisakazu T.、Munesue Toshio、Ishitobi Makoto、Omori Masao、Wada Yuji、Okazawa Hidehiko、Koeda Tatsuya、Sadato Norihiro	4．巻 119
2．論文標題 Age-dependent atypicalities in body- and face-sensitive activation of the EBA and FFA in individuals with ASD	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Neurosci Res.	6．最初と最後の頁 38～52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.neures.2017.02.001	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Sakai Hiroyuki、Ando Takafumi、Sadato Norihiro、Uchiyama Yuji	4．巻 7
2．論文標題 Greater cerebellar gray matter volume in car drivers: an exploratory voxel-based morphometry study	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Scientific Reports	6．最初と最後の頁 46526～46526
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1038/srep46526	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Sumiya Motofumi、Koike Takahiko、Okazaki Shuntaro、Kitada Ryo、Sadato Norihiro	4．巻 123
2．論文標題 Brain networks of social action-outcome contingency: The role of the ventral striatum in integrating signals from the sensory cortex and medial prefrontal cortex	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Neurosci Res.	6．最初と最後の頁 43～54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.neures.2017.04.015	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Kawamichi Hiroaki、Sugawara Sho K.、Hamano Yuki H.、Kitada Ryo、Nakagawa Eri、Kochiyama Takanori、Sadato Norihiro	4．巻 8
2．論文標題 Neural correlates underlying change in state self-esteem	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Scientific Reports	6．最初と最後の頁 1798～1798
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1038/s41598-018-20074-0	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Sakai Hiroyuki、Ando Takafumi、Sadato Norihiro、Uchiyama Yuji	4．巻 8
2．論文標題 Speed-related activation in the mesolimbic dopamine system during the observation of driver-view videos	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Scientific Reports	6．最初と最後の頁 711～711
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1038/s41598-017-18792-y	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 T.Anme, E. Tanaka, T. Watanabe, E. Tomisaki and K. Watanabe	4．巻 116
2．論文標題 Child development and the care enviornment: longitudinal perspective	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Anvances in psychology research	6．最初と最後の頁 197-205
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 渡邊久実，田中笑子,安梅勅江	4．巻 31
2．論文標題 ライフコースアプローチによる思春期のwell-being実現に向けた要因解明	5．発行年 2018年
3．雑誌名 発達研究	6．最初と最後の頁 215-220
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Islam Muhammad Muinul、Tsujikawa Tetsuya、Mori Tetsuya、Kiyono Yasushi、Okazawa Hidehiko	4．巻 62
2．論文標題 Estimation of arterial input by a noninvasive image derived method in brain H2150 PET study: confirmation of arterial location using MR angiography	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Physics in Medicine and Biology	6．最初と最後の頁 4514～4524
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1088/1361-6560/aa6a95	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Islam Muhammad M.、Tsujikawa Tetsuya、Mori Tetsuya、Kiyono Yasushi、Okazawa Hidehiko	4．巻 31
2．論文標題 Pixel-by-pixel precise delay correction for measurement of cerebral hemodynamic parameters in H2150 PET study	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Annals of Nuclear Medicine	6．最初と最後の頁 283～294
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s12149-017-1156-5	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Morita Tomoyo、Saito Daisuke N.、Ban Midori、Shimada Koji、Okamoto Yuko、Kosaka Hirotaka、Okazawa Hidehiko、Asada Minoru、Naito Eiichi	4．巻 348
2．論文標題 Self-face recognition shares brain regions active during proprioceptive illusion in the right inferior fronto-parietal superior longitudinal fasciculus III network	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Neuroscience	6．最初と最後の頁 288～301
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.neuroscience.2017.02.031	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Naito Eiichi、Morita Tomoyo、Saito Daisuke N、Ban Midori、Shimada Koji、Okamoto Yuko、Kosaka Hirotaka、Okazawa Hidehiko、Asada Minoru	4．巻 27
2．論文標題 Development of Right-hemispheric Dominance of Inferior Parietal Lobule in Proprioceptive Illusion Task	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Cerebral Cortex	6．最初と最後の頁 5385～5397
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1093/cercor/bhx223	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Neishi Hiroyuki、Ikawa Masamichi、Okazawa Hidehiko、Tsujikawa Tetsuya、Arishima Hidetaka、Kikuta Ken-ichiro、Yoneda Makoto	4．巻 78
2．論文標題 Precise Evaluation of Striatal Oxidative Stress Corrected for Severity of Dopaminergic Neuronal Degeneration in Patients with Parkinson's Disease: A Study with 62Cu-ATSM PET and 123I-FP-CIT SPECT	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Eur Neurol	6．最初と最後の頁 161～168
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1159/000479627	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Shimada Koji、Fujisawa Takashi X.、Takiguchi Shinichiro、Naruse Hiroaki、Kosaka Hirotaka、Okazawa Hidehiko、Tomoda Akemi	4．巻 18
2．論文標題 Ethnic differences in COMT genetic effects on striatal grey matter alterations associated with childhood ADHD: A voxel-based morphometry study in a Japanese sample	5．発行年 2017年
3．雑誌名 World J Biol Psychiatry	6．最初と最後の頁 322～328
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3109/15622975.2015.1102325	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Morita Tomoyo、Saito Daisuke N、Ban Midori、Shimada Koji、Okamoto Yuko、Kosaka Hirotaka、Okazawa Hidehiko、Asada Minoru、Naito Eiichi	4．巻 28
2．論文標題 Self-Face Recognition Begins to Share Active Region in Right Inferior Parietal Lobule with Proprioceptive Illusion During Adolescence	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Cerebral Cortex	6．最初と最後の頁 1532～1548
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1093/cercor/bhy027	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Nishizato Minaho、Fujisawa Takashi X.、Kosaka Hirotaka、Tomoda Akemi	4．巻 7
2．論文標題 Developmental changes in social attention and oxytocin levels in infants and children	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Scientific Reports	6．最初と最後の頁 2540
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1038/s41598-017-02368-x	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Hirosawa Tetsu、Kikuchi Mitsuru、Ouchi Yasuomi、Takahashi Tetsuya、Yoshimura Yuko、Kosaka Hirotaka、Furutani Naoki、Hiraishi Hirotoshi、Fukai Mina、Yokokura Masamichi、Yoshikawa Etsuji、Bunai Tomoyasu、Minabe Yoshio	4．巻 10
2．論文標題 A pilot study of serotonergic modulation after long-term administration of oxytocin in autism spectrum disorder	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Autism Research	6．最初と最後の頁 821～828
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1002/aur.1761	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Mizuno Yoshifumi、Jung Minyoung、Fujisawa Takashi X.、Takiguchi Shinichiro、Shimada Koji、Saito Daisuke N.、Kosaka Hirotaka、Tomoda Akemi	4．巻 7
2．論文標題 Catechol-O-methyltransferase polymorphism is associated with the cortico-cerebellar functional connectivity of executive function in children with attention-deficit/hyperactivity disorder	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Scientific Reports	6．最初と最後の頁 4850
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1038/s41598-017-04579-8	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Fukai Mina、Hirosawa Tetsu、Kikuchi Mitsuru、Ouchi Yasuomi、Takahashi Tetsuya、Yoshimura Yuko、Miyagishi Yoshiaki、Kosaka Hirotaka、Yokokura Masamichi、Yoshikawa Etsuji、Bunai Tomoyasu、Minabe Yoshio	4．巻 267
2．論文標題 Oxytocin effects on emotional response to others’ faces via serotonin system in autism: A pilot study	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Psychiatry Res.	6．最初と最後の頁 45～50
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.pscychresns.2017.06.015	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Kasagi Masato、Huang Zirui、Narita Kosuke、Shitara Hitoshi、Motegi Tomokazu、Suzuki Yusuke、Fujihara Kazuyuki、Tanabe Sean、Kosaka Hirotaka、Ujita Koichi、Fukuda Masato、Northoff Georg	4．巻 2017
2．論文標題 Association between Scale-Free Brain Dynamics and Behavioral Performance: Functional MRI Study in Resting State and Face Processing Task	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Behav. Neurol.	6．最初と最後の頁 1～9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://doi.org/10.1155/2017/2824615	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Ishikawa Mitsuhiko、Itakura Shoji、Tanabe Hiroki C.	4．巻 2017
2．論文標題 Autistic Traits Affect P300 Response to Unexpected Events, regardless of Mental State Inferences	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Autism Research and Treatment	6．最初と最後の頁 1～10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1155/2017/8195129	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 飯高哲也	4．巻 17
2．論文標題 安静時fMRIによる自閉スペクトラム症の評価	5．発行年 2017年
3．雑誌名 分子精神医学	6．最初と最後の頁 71-75
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 板倉昭二	4．巻 40
2．論文標題 赤ちゃんと社会性：社会的評価、向社会行動、および公平感	5．発行年 2017年
3．雑誌名 小児看護	6．最初と最後の頁 1713-1719.
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 板倉昭二	4．巻 66
2．論文標題 ロボットと子どもの社会性の発達：Developmental Cyberneticsの視点	5．発行年 2018年
3．雑誌名 教育と医学1月号	6．最初と最後の頁 33～41
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Okumura Yuko、Kanakogi Yasuhiro、Kobayashi Tessei、Itakura Shoji	4．巻 166
2．論文標題 Individual differences in object-processing explain the relationship between early gaze-following and later language development	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Cognition	6．最初と最後の頁 418～424
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.cognition.2017.06.005	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Ishikawa Mitsuhiko、Park Yun-hee、Kitazaki Michiteru、Itakura Shoji	4．巻 12
2．論文標題 Social information affects adults’ evaluation of fairness in distributions: An ERP approach	5．発行年 2017年
3．雑誌名 PLOS ONE	6．最初と最後の頁 e0172974
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1371/journal.pone.0172974	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Ishikawa Mitsuhiko	4．巻 2
2．論文標題 Familiarity of Actors Affects Eye Gaze Processing During Observation of Goal-Directed Actions	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Psychology and Behavioral Science International Journal	6．最初と最後の頁 555592
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.19080/PBSIJ.2017.02.555592	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Kim Sunae、Paulus Markus、Sodian Beate、Itakura Shoji、Ueno Mika、Senju Atsushi、Proust Jolle	4．巻 54
2．論文標題 Selective learning and teaching among Japanese and German children.	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Developmental Psychology	6．最初と最後の頁 536～542
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1037/dev0000441	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 Broesch Tanya、Itakura Shoji、Rochat Philippe	4．巻 48
2．論文標題 Learning From Others: Selective Requests by 3-Year-Olds of Three Cultures	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Journal of Cross-Cultural Psychology	6．最初と最後の頁 1432～1441
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1177/0022022117731093	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 Yaku Hidenobu、Yoshida Yoshio、Okazawa Hidehiko、Kiyono Yasushi、Fujita Yuko、Miyoshi Daisuke	4．巻 89
2．論文標題 Highly Sensitive Telomerase Assay Insusceptible to Telomerase and Polymerase Chain Reaction Inhibitors for Cervical Cancer Screening Using Scraped Cells	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Analytical Chemistry	6．最初と最後の頁 6948～6953
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1021/acs.analchem.6b04777	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Yaku Hidenobu、Yoshida Yoshio、Okazawa Hidehiko、Kiyono Yasushi、Fujita Yuko、Miyoshi Daisuke	4．巻 89
2．論文標題 Highly Sensitive Telomerase Assay Insusceptible to Telomerase and Polymerase Chain Reaction Inhibitors for Cervical Cancer Screening Using Scraped Cells	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Analytical Chemistry	6．最初と最後の頁 6948～6953
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1021/acs.analchem.6b04777	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Pornpattananangkul N, Hariri AR, Harada T, Mano Y, Komeda H, Parrish TB, Sadato N, Iidaka T, Chiao JY.	4．巻 139
2．論文標題 Cultural influences on neural basis of inhibitory control.	5．発行年 2016年
3．雑誌名 Neuroimage	6．最初と最後の頁 114-126
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.neuroimage.2016.05.061	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Harada T, Hayashi A, Sadato N, Iidaka T.	4．巻 30
2．論文標題 Neural correlates of emotional contagion induced by happy and sad expressions.	5．発行年 2016年
3．雑誌名 Journal of Psychophysiology	6．最初と最後の頁 114-123
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1027/0269-8803/a000160	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Tokie Anme, Emiko Tanaka, Taeko Watanabe, Etsuko Tomisaki and Kumi Watanabe.	4．巻 116
2．論文標題 Child development and the care enviornment: longitudinal perspective	5．発行年 2016年
3．雑誌名 Anvances in psychology research	6．最初と最後の頁 197-205
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Wencan Chen, Emiko Tanakai, Kumi Watanabe, EtsukoTomisaki, Taeko Watanabe, Bailiang Wu, Tokie Anme.	4．巻 244
2．論文標題 The influence of home-rearing environment on children’s behavioral problems 3 years’ later	5．発行年 2016年
3．雑誌名 Psychiatry Research	6．最初と最後の頁 185-193
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.psychres.2016.07.043	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 Tokie Anme, Emiko Tanaka, Taeko Watanabe, Etsuko Tomisaki, Yukiko Mochizuki.	4．巻 6(2)
2．論文標題 Does Center-based Childcare Play a Role in Preventing Child Maltreatment? Evidence from a One-year Follow-up Study	5．発行年 2016年
3．雑誌名 International Journal of Applied Psychology	6．最初と最後の頁 31-36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5923/j.ijap.20160602.02	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Islam Muhammad M.、Tsujikawa Tetsuya、Mori Tetsuya、Kiyono Yasushi、Okazawa Hidehiko	4．巻 31
2．論文標題 Pixel-by-pixel precise delay correction for measurement of cerebral hemodynamic parameters in H2 150 PET study	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Annals of Nuclear Medicine	6．最初と最後の頁 283～294
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s12149-017-1156-5	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 Isozaki Makoto、Arai Yoshikazu、Higashino Yoshifumi、Okazawa Hidehiko、Kikuta Ken-ichiro	4．巻 30
2．論文標題 Cerebral hyperperfusion syndrome resulting in subarachnoid hemorrhage after carotid artery stenting	5．発行年 2016年
3．雑誌名 Annals of Nuclear Medicine	6．最初と最後の頁 669～674
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s12149-016-1108-5	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Tsujikawa T, Kimura H, Matsuda T, Fujiwara Y, Isozaki M, Kikuta K, Okazawa H.	4．巻 11
2．論文標題 Arterial transit time mapping obtained by pulsed continuous 3D ASL imaging with multiple post-label delay acquisitions: Comparative study with PET-CBF in patients with chronic occlusive cerebrovascular disease.	5．発行年 2016年
3．雑誌名 PLoS ONE	6．最初と最後の頁 e0156005
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1371/journal.pone.0156005	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Morita T, Kosaka H, Saito DN, Fujii T, Ishitobi M, Munesue T, Inohara K, Okazawa H, Kakigi R, Sadato N.	4．巻 26
2．論文標題 Neural correlates of emotion processing during observed self-face recognition in individuals with autism spectrum disorders	5．発行年 2016年
3．雑誌名 Res Autism Spectr Disord	6．最初と最後の頁 16-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.rasd.2016.02.011	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Kosaka H, Okamoto Y, Munesue T, Yamasue H, Inohara K, Fujioka T, Anme T, Orisaka M, Ishitobi M, Jung M, Fujisawa TX, Tanaka S, Arai S, Asano M, Saito DN, Sadato N, Tomoda A, Omori M, Sato M, Okazawa H, Higashida H, Wada Y.	4．巻 6
2．論文標題 Oxytocin efficacy is modulated by dosage and oxytocin receptor genotype in young adults with high-functioning autism: a 24-week randomized clinical trial.	5．発行年 2016年
3．雑誌名 Translational Psychiatry	6．最初と最後の頁 e872
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1038/tp.2016.152.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Yoshihara K, Tanabe HC, Kawamichi H, Koike T, Yamazaki M, Sudo N, Sadato N	4．巻 134
2．論文標題 Neural correlates of fear-induced sympathetic response associated with the peripheral temperature change rate.	5．発行年 2016年
3．雑誌名 Neuroimage	6．最初と最後の頁 522-531
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.neuroimage.2016.04.040	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Yeung AWK, Tanabe HC, Suen JLK, Goto T	4．巻 135
2．論文標題 Taste intensity modulates effective connectivity from the insula cortex to the thalamus in humans.	5．発行年 2016年
3．雑誌名 Neuroimage	6．最初と最後の頁 214-222
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.neuroimage.2016.04.057	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Matsui T, Nakamura T, Utsumi A, Sasaki AT, Koike T, Yoshida Y, Harada T, Tanabe HC, Sadato N	4．巻 87
2．論文標題 The role of prosody and context in sarcasm comprehension: behavioral and fMRI evidence.	5．発行年 2016年
3．雑誌名 Neuropsychologia	6．最初と最後の頁 74-84
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.neuropsychologia.2016.04.031	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Goto TK, Yeung AW, Tanabe HC, Ito Y, Jung HS, Ninomiya Y	4．巻 41
2．論文標題 Enhancement of combined umami and salty taste by glutathione in the human tongue and brain.	5．発行年 2016年
3．雑誌名 Chemical Senses	6．最初と最後の頁 623-630
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1093/chemse/bjw066	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 吉岡歩、志和史朗、大隅尚広、田邊宏樹	4．巻 14
2．論文標題 前頭葉機能を背景としたサイコパシー特性と意思決定の関連	5．発行年 2016年
3．雑誌名 人間環境学研究	6．最初と最後の頁 41-47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.4189/shes.14.41	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Kawamichi H, Sugawara SK, Hamano YH, Makita K, Matsunaga M, Tanabe HC, Ogino Y, Saito S, Sadato N	4．巻 7
2．論文標題 Being in a romantic relationship is associated with reduced gray matter density in striatum and increased subjective happiness.	5．発行年 2016年
3．雑誌名 Frontiers in Psychology	6．最初と最後の頁 1763
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3389/fpsyg.2016.01763	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Jacquot, A., Eskenazi, T., Itakura, S., Sales-Wuillemin, E., Senju, A., Proust, J., Conty, L.	4．巻 108
2．論文標題 Cross cultural differences in response to social feedback during metacognitive evaluations: An electromyographic study.	5．発行年 2016年
3．雑誌名 International Journal of Psychophysiology	6．最初と最後の頁 153-154
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.ijpsycho.2016.07.444	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Ishikawa, M., Park, Y-h., Kitazaki, M., and Itakura, S.	4．巻 12
2．論文標題 Social information affects adults’ evaluation of fairness in distributions: An ERP approach.	5．発行年 2017年
3．雑誌名 PLoS ONE	6．最初と最後の頁 e0172974
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 0.1371/journal.pone.0172974	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Okumura, Y., Kobayashi, T., and Itakura, S.	4．巻 11
2．論文標題 Eye contact affects object representation in 9-month-old infants.	5．発行年 2016年
3．雑誌名 PLoS ONE	6．最初と最後の頁 e0165145
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） org/10.1371/journal.pone.0165145	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Moriguchi, Y., Kanakogi, Y., Todo, N., Okumura, Y., Shinohara, I. and Itakura, S.	4．巻 7
2．論文標題 Goal attribution toward non-human objects during infancy predicts imaginary companion status during preschool years.	5．発行年 2016年
3．雑誌名 Frontiers in Psychology	6．最初と最後の頁 221(1-8)
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3389/fpsyg.2016.00221	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 板倉昭二	4．巻 2
2．論文標題 乳児における向社会行動の知覚－乳児にとってのナイス・エージェントとは？－	5．発行年 2016年
3．雑誌名 エモーション・スタディーズ	6．最初と最後の頁 3-9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Gomez-Tames J, Sugiyama Y, Laakso I, Tanaka S, Koyama S, Sadato N, Hirata A.	4．巻 61
2．論文標題 Effect of microscopic modeling of skin in electrical and thermal analysis of transcranial direct current stimulation.	5．発行年 2016年
3．雑誌名 Physics in Medicine and Biology	6．最初と最後の頁 8825-8838
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1088/1361-6560/61/24/8825.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Hirotani M, Terry JM and Sadato N .	4．巻 7
2．論文標題 Processing load imposed by line breaks in english temporal wh-questions. Front. Psychol	5．発行年 2016年
3．雑誌名 Front. Psychol	6．最初と最後の頁 1465
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3389/fpsyg.2016.01465.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Kawamichi H, Sugawara SK, Hamano YH, Makita K, Kochiyama T, Sadato N.	4．巻 6
2．論文標題 Increased frequency of social interaction is associated with enjoyment enhancement and reward system activation.	5．発行年 2016年
3．雑誌名 Sci Rep.	6．最初と最後の頁 24561
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1038/srep24561	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Kawamichi H, Yoshihara K, Sugawara SK, Matsunaga M, Makita K, Hamano YH, Tanabe HC, Sadato N.	4．巻 11
2．論文標題 Helping behavior induced by empathic concern attenuates anterior cingulate activation in response to others' distress. Soc Neurosci.	5．発行年 2016年
3．雑誌名 Social neuroscience	6．最初と最後の頁 109-122
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/17470919.2015.1049709.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Koike T, Tanabe HC, Okazaki S, Nakagawa E, Sasaki AT, Shimada K, Sugawara SK, Takahashi HK, Yoshihara K, Bosch-Bayard J, Sadato N.	4．巻 125
2．論文標題 Neural substrates of shared attention as social memory: A hyperscanning functional magnetic resonance imaging study.	5．発行年 2016年
3．雑誌名 Neuroimage	6．最初と最後の頁 401-412
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.neuroimage.2015.09.076	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Laakso I, Tanaka S, Mikkonen M, Koyama S, Sadato N, Hirata A	4．巻 137
2．論文標題 Electric fields of motor and frontal tDCS in a standard brain space: A computer simulation study.	5．発行年 2016年
3．雑誌名 Neuroimage	6．最初と最後の頁 140-151
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.neuroimage.2016.05.032	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Matsunaga M, Kawamichi H, Koike T, Yoshihara K, Yoshida Y, Takahashi HK, Nakagawa E, Sadato N	4．巻 134
2．論文標題 Structural and functional associations of the rostral anterior cingulate cortex with subjective happiness.	5．発行年 2016年
3．雑誌名 Neuroimage	6．最初と最後の頁 132-141
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.neuroimage.2016.04.020.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Tanaka SC, Yamada K, Kitada R, Tanaka S, Sugawara SK, Ohtake F, Sadato N	4．巻 6
2．論文標題 Overstatement in happiness reporting with ordinal, bounded scale.	5．発行年 2016年
3．雑誌名 Scientific reports	6．最初と最後の頁 21321
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1038/srep21321	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Tsurugizawa T, Tokuda S, Harada T, Takahashi T, Sadato N	4．巻 11
2．論文標題 Pharmacological and expectancy effects of a low amount of alcohol drinking on outcome valuation and risk perception in males and females.	5．発行年 2016年
3．雑誌名 Plos One	6．最初と最後の頁 e0154083
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1371/journal.pone.0154083.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Yang J, Kitada R, Kochiyama T, Yu Y, Makita K, Araki Y, Wu J, Sadato N.	4．巻 7
2．論文標題 Brain networks involved in tactile speed classification of moving dot patterns: the effects of speed and dot periodicity.	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Scientific Reports	6．最初と最後の頁 40931
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1038/srep40931	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Morita T, Kosaka H, Saito DN, Fujii T, Ishitobi M, Munesue T, Inohara K, Okazawa H, Kakigi R, Sadato N	4．巻 26
2．論文標題 Neural correlates of emotion processing during observed self-face recognition in individuals with autism spectrum disorders	5．発行年 2016年
3．雑誌名 Research in Autism Spectrum Disorders	6．最初と最後の頁 16-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.rasd.2016.02.011	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Kawamichi H, Kitada R, Yoshihara K, Takahashi H and Sadato N	4．巻 9
2．論文標題 Interpersonal touch suppresses visual processing of aversive stimuli	5．発行年 2015年
3．雑誌名 Front. Hum. Neurosci.	6．最初と最後の頁 164
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3389/fnhum.2015.00164	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Shimada K, Hirotani M, Yokokawa H, Yoshida H, Makita K, Yamazaki-Murase M, Tanabe HC, Sadato N	4．巻 300
2．論文標題 Fluency-dependent cortical activation associated with speech production and comprehension in second language learners	5．発行年 2015年
3．雑誌名 Neuroscience	6．最初と最後の頁 474-492
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.neuroscience.2015.05.045	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Mizuno K, Tanaka M, Tanabe H. C, Joudoi T, Kawatani J, Shigihara Y, Tomoda A, Miike T, Imai-Matsumura K, Sadato N, Watanabe Y	4．巻 9
2．論文標題 Less efficient and costly processes of frontal cortex in childhood chronic fatigue syndrome	5．発行年 2015年
3．雑誌名 Neuroimage: Clinical	6．最初と最後の頁 355-368
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.nicl.2015.09.001	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Hayashi MJ, Ditye T, Harada T, Hashiguchi M, Sadato N, Carlson S, et al.	4．巻 13
2．論文標題 Time adaptation shows duration selectivity in the human parietal cortex	5．発行年 2015年
3．雑誌名 PLoS Biol.	6．最初と最後の頁 e1002262
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1371/journal.pbio.1002262	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Okazaki S, Hirotani M, Koike T, Bosch-Bayard J, Takahashi HK, Hashiguchi M, Sadato N	4．巻 10
2．論文標題 Unintentional interpersonal synchronization represented as a reciprocal visuo-postural feedback system: a multivariate autoregressive modeling approach	5．発行年 2015年
3．雑誌名 PLOSONE	6．最初と最後の頁 e0137126
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1371/journal.pone.0137126	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Mizuno K, Takiguchi S, Yamazaki M, Asano M, Kato S, Kuriyama K, Watanabe Y, Sadato N, Tomoda A	4．巻 17
2．論文標題 Impaired neural reward processing in children and adolescents with reactive attachment disorder: A pilot study	5．発行年 2015年
3．雑誌名 Asian J Psychiatr.	6．最初と最後の頁 88-93
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.ajp.2015.08.002	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Koike T, Tanabe HC, Okazaki S, Nakagawa E, Sasaki AT, Shimada K, Sugawara SK, Takahashi HK, Yoshihara K, Bosch-Bayard J, Sadato N	4．巻 125
2．論文標題 Neural substrates of shared attention as social memory: A hyperscanning functional magnetic resonance imaging study	5．発行年 2015年
3．雑誌名 Neuroimage	6．最初と最後の頁 401-412
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.neuroimage.2015.09.076	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Hayashi MJ, Ditye T, Harada T, Hashiguchi M, Sadato N, Carlson S, Walsh V, Kanai R	4．巻 13
2．論文標題 Correction: Time Adaptation Shows Duration Selectivity in the Human Parietal Cortex	5．発行年 2015年
3．雑誌名 PLoS Biol.	6．最初と最後の頁 e1002296
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1371/journal.pbio.1002296	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Takahashi HK, Kitada R, Sasaki AT, Kawamichi H, Okazaki S, Kochiyama T, Sadato N	4．巻 101
2．論文標題 Brain networks of affective mentalizing revealed by the tear effect: The integrative role of the medial prefrontal cortex and precuneus	5．発行年 2015年
3．雑誌名 Neurosci Res.	6．最初と最後の頁 32-43
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.neures.2015.07.005	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Kawakami S, Sato H, Sasaki AT, Tanabe HC, Yoshida Y, Saito M, Toyoda H, Sadato N and Kang Y	4．巻 9
2．論文標題 The brain mechanisms underlying the perception of pungent taste of capsaicin and the subsequent autonomic responses	5．発行年 2016年
3．雑誌名 Front. Hum. Neurosci.	6．最初と最後の頁 720
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3389/fnhum.2015.00720	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Nakagawa K, Mochizuki H, Koyama S, Tanaka S, Sadato N, Kakigi R	4．巻 127
2．論文標題 A transcranial direct current stimulation over the sensorimotor cortex modulates the itch sensation induced by histamine	5．発行年 2016年
3．雑誌名 Clin Neurophysiol.	6．最初と最後の頁 827-832
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.clinph.2015.07.003	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Yusuke Takahashi, Kensuke Okada, Takahiro Hoshino, Tokie Anme	4．巻 10
2．論文標題 Developmental Trajectories of Social Skills during Early Childhood and Links to Parenting Practices in a Japanese Sample	5．発行年 2015年
3．雑誌名 PLOS ONE	6．最初と最後の頁 e0135357
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1371/journal.pone.0135357	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Masuya Y, Okamoto Y, Inohara K, Matsumura Y, Fujioka T, Wada Y, Kosaka H	4．巻 6
2．論文標題 Sex-different abnormalities in the right second to fourth digit ratio in Japanese individuals with autism spectrum disorders	5．発行年 2015年
3．雑誌名 Mol Autism	6．最初と最後の頁 13-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1186/s13229-015-0028-x	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Shimada K, Takiguchi S, Mizushima S, Fujisawa TX, Saito DN, Kosaka H, Okazawa H, Tomoda A.	4．巻 9
2．論文標題 Reduced visual cortex gray matter volume in children with reactive attachment disorder	5．発行年 2015年
3．雑誌名 NeuroImage Clinical	6．最初と最後の頁 13-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.nicl.2015.07.001	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Jung M, Maria M, Saito DN, Tomoda A, Okazawa H, Wada Y, Kosaka H	4．巻 10
2．論文標題 Sex differences in the default mode network with autism spectrum traits	5．発行年 2015年
3．雑誌名 PLoS ONE	6．最初と最後の頁 e0143126
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1371/journal.pone.0143126	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Munesue T, Nakamura H, Kikuchi M, Miura Y, Takeuchi N, Anme T, Nanba E, Adachi K, Tsubouchi K, Sai Y, Miyamoto K, Horike S, Yokoyama S, Nakatani H, Kosaka H, Minabe Y, Higashida H	4．巻 7
2．論文標題 Oxytocin for male subjects with autism spectrum disorder and comorbid intellectual disabilities: A randomized pilot study	5．発行年 2016年
3．雑誌名 Frontiers in Psychiatry	6．最初と最後の頁 2
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3389/fpsyt.2016.00002	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Fujioka T, Inohara K, Okamoto Y, Masuya Y, Ishitobi M, Saito DN, Jung M, Arai S, Matsumura Y, Fujisawa TX, Narita K, Suzuki K, Tsuchiya KJ, Mori N, Katayama T, Sato M, Munesue T, Okazawa H, Tomoda A, Wada Y, Kosaka H	4．巻 7
2．論文標題 Gazefinder as a clinical supplementary tool for discriminating between autism spectrum disorder and typical development in male adolescents and adults	5．発行年 2016年
3．雑誌名 Molecular AutismBrain	6．最初と最後の頁 19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1186/s13229-016-0083-y	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Suzuki A, Ito Y, Kiyama S, Kunimi M, Ohira H, Kawaguchi J, Tanabe HC, Nakai T	4．巻 10
2．論文標題 Involvement of the ventrolateral prefrontal cortex in learning others’ bad reputations and indelible disgust	5．発行年 2016年
3．雑誌名 Front. Hum. Neurosci.	6．最初と最後の頁 28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3389/fnhum.2016.00028	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Moriguchi, Y., Kanakogi, Y., Todo, N., Okumura, Y., Shinohara, I. and Itakura, S.	4．巻 7
2．論文標題 Goal attribution toward non-human objects during infancy predicts imaginary companion status during preschool years	5．発行年 2016年
3．雑誌名 Frontiers in Psychology	6．最初と最後の頁 211
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3389/fpsyg.2016.00221	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 板倉昭二・開一夫	4．巻 58
2．論文標題 乳児における共感の発達―その認知基盤神経基盤―	5．発行年 2016年
3．雑誌名 心理学評論	6．最初と最後の頁 345-356
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 池田彩夏・小林哲生・板倉昭二	4．巻 23
2．論文標題 日本語母語話者の対乳幼児発話における格助詞省略	5．発行年 2016年
3．雑誌名 認知科学	6．最初と最後の頁 8-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Suzuki, Y., Galli, L., Ikeda, A., Itakura, S., and Kitazaki, M	4．巻 5
2．論文標題 Measuring empathy for human and robot hand pain using electroencephalography.	5．発行年 2015年
3．雑誌名 Scientific Reports	6．最初と最後の頁 15942
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1038/srep15924	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Kannegiesser, P., Itakura, S., Zhou, Y., Kanda, T., Ishiguro, H., & Hood, B.	4．巻 16
2．論文標題 The role of social eye-gaze in children's and adults' ownership attributions to robotic agents in three cultures	5．発行年 2015年
3．雑誌名 Interaction Studies	6．最初と最後の頁 1-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.10 75/is. 16.1.01.kan	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Okanda, M., Asada, K., Moriguchi, Y., & Itakura, S	4．巻 6
2．論文標題 Understanding Violations of Gricean Maxims in Preschoolers and Adults	5．発行年 2015年
3．雑誌名 Frontiers in Psychology	6．最初と最後の頁 901
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） org/10.3389/fpsyg.2015.00901	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 奥村優子・小林哲生・鹿子木康弘・板倉昭二	4．巻 115
2．論文標題 乳児期の視線追従及び物体処理と言語発達の関連―語彙カテゴリに基づく分析―	5．発行年 2015年
3．雑誌名 電子情報通信学会技術研究報告	6．最初と最後の頁 233-236
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 板倉昭二	4．巻 114
2．論文標題 ロボットを通して探る子どもの心-Developmental Cyberneticsの挑戦	5．発行年 2015年
3．雑誌名 電子情報通信学会技術研究報告	6．最初と最後の頁 203-207
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 東山薫・Kana, I., Slaughter, V., 北崎充晃・板倉昭二	4．巻 114
2．論文標題 心の理論における日豪の比較-主語、心的状態語の使用の有無からの検討-	5．発行年 2015年
3．雑誌名 電子情報通信学会技術研究報告	6．最初と最後の頁 103-108
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 奥村優子・池田彩夏・小林哲生・板倉昭二	4．巻 114
2．論文標題 5-6歳児における評判への関心-良い評判と悪い評判の違いの検討-	5．発行年 2015年
3．雑誌名 電子情報通信学会技術研究報告	6．最初と最後の頁 109-114
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 朴允姫・板倉昭二	4．巻 114
2．論文標題 情動に関する具体的な心的状態語は子どもの情動知覚に影響を与えるのか？	5．発行年 2015年
3．雑誌名 電子情報通信学会技術研究報告	6．最初と最後の頁 115-120
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

１．著者名 池田彩夏・小林哲生・板倉昭二	４．巻 114
２．論文標題 日本人養育者のInfant-Directed Speechにおける格助詞脱落の個人差	５．発行年 2015年
３．雑誌名 電子情報通信学会技術研究報告	６．最初と最後の頁 121-126
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計276件（うち招待講演　66件／うち国際学会　124件）

１．発表者名 田邊宏樹
２．発表標題 脳から見た言語・学習・コミュニケーション
３．学会等名 LET関西支部早期英語教育研究部会（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Okazawa H
２．発表標題 PET/MR International Experience and Opportunities -PET/MR in Japan-
３．学会等名 2020 Annual Meeting of American College of Nuclear Medicine (ACNM)（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 岡沢秀彦
２．発表標題 認知症・変性疾患における画像診断の有用性と今後の展望「放射線科医の立場から」
３．学会等名 第72回栃木県核医学研修会（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Maruyama S, Fukunaga M, Fautz HP, Heidemann R, and Sadato N
２．発表標題 Comparison of 3T and 7T MRI for the visualization of globus pallidus sub-segments.
３．学会等名 1st CU-KU Symposium and 4th CU-NIPS Symposium "Advances in Neuroscience Research"（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Hiromi Atsuzawa , Tanaka Emiko , Watanabe Kumi , Anme Tokie
２．発表標題 Decision-making and student motivation for careers in nursing: a pre-employment focus group interview
３．学会等名 International Caree Guidance for Inclusive Society (Bratislava)（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Tokie Anme
２．発表標題 Comprehensive Evidence Based Child Care and Education
３．学会等名 Second Forum of Child Care and Education (Shang Hai)（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Hatsue Sakai , Emiko Tanaka , Taeko Watanabe , Tokie Anme
２．発表標題 Evidence based Child Care Practice
３．学会等名 Second Forum of Child Care and Education (Shang Hai)（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Emiko Tanaka , Taeko Watanabe , Hatsue Sakai , Tokie Anme
２．発表標題 Evidence based Child Care using Interaction Ration Scale
３．学会等名 Second Forum of Child Care and Education (Shang Hai)（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Taeko Watanabe , Emiko Tanaka , Hatsue Sakai , Tokie Anme
２．発表標題 A web-based application for interprofessional collaboration
３．学会等名 Second Forum of Child Care and Education (Shang Hai)（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Panpan Chen , Emiko Tanka , Tokie Anme
２．発表標題 Association Between home-rearing environment and social skills among 6-year-old children in China
３．学会等名 Tsukuba Global Scientific Week Conference (Tsukuba)（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Dandan Jiao,Kumi Watanabe, Emiko Tanaka, Hiromi Atsuzawa, Yoko Onda, Munenori Matsumoto, Ammara Ajma, Otorirei Sato, Xiao Cui, Pan pan Chen, Xiaoyue Tao, Sana Boutefnouchet, Xiaoyu Chen, XiangLi, Tokie Anme
２．発表標題 Longitudinal relationship between changes in social relationship and physical function among older adults
３．学会等名 Tsukuba Global Scientific Week Conference (Tsukuba)（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Xiang Li, Emiko Tanaka, Kumi Watanabe, Hiromi Atsuzawa, Ammara Ajmal, Munenori Matsumoto, Dandan Jiao, Otorirei Sato, Yoko Onda, Panpan Chen, Xiaoyue Tao, Xiao Cui, Sana Boutefnouchet, Xiaoyu Chen, and Tokie Anme
２．発表標題 The association between home-rearing environment and child development among Japanese children aged 0-6 years old
３．学会等名 Tsukuba Global Scientific Week Conference (Tsukuba)（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 XiaoyueTao, Emiko Tanaka,Panpan Chen,Kumi Watanabe, Tokie Anme
２．発表標題 The relationship between social interaction and health-related quality of life among middle school students in China
３．学会等名 Tsukuba Global Scientific Week Conference (Tsukuba)（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Ammara Ajmal,Emiko Tanaka,Kumi Watanabe,Hiromi Atsuzawa, Yoko Onda,Dandan Jiao, Munenori Matsumoto,Otorirei Sato, Xiao Cui,Pan pan Chen, Xiaoyue Tao, Sana Boutefnouchet, Xiaoyu Chen, Xiang Li, Tokie Anme
２．発表標題 Longitudinal Relationship between eating habits in pre-school children and social-emotional development six years later
３．学会等名 Tsukuba Global Scientific Week Conference (Tsukuba)（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Xiao Cui, Emiko Tanaka , Kumi Watanabe ,Hiromi Atsuzawa , Dandan Jiao, Xiaoyu Chen ,Tokie Anme
２．発表標題 The effect of social interaction on Japanese elderly with depressive tendency
３．学会等名 Tsukuba Global Scientific Week Conference (Tsukuba)（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Sana Boutefnouchet, Kumi Watanabe, Emiko Tanaka, Hiromi Atsuzawa, Ammara Ajma, Munenori Matsumoto, Dandan Jiao, Otorirei Sato, Yoko Onda, Panpan Chen, Xiaoyue Tao, Xiao Cui, Xiaoyu Chen, Xiang Li, Tokie Anme
２．発表標題 Change Differences between Favorable and Unfavorable Eating Habits in Japanese Adults and Elderly over 15 Years Tsukuba Global Scientific Week Conference (Tsukuba)
３．学会等名 2019（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Xiaoyu Chen, Emiko Tanaka, Kumi Watanabe, Hiromi Atsuzawa, Ammara Ajmal, Munenori Matsumoto, Dandan Jiao, Otorirei Sato, Yoko Onda, Panpan Chen, Xiaoyue Tao, Xiao Cui, Sana Boutefnouchet, Xiang Li, Tokie Anme.
２．発表標題 The influence of sleep conditions on health-related quality of life among Japanese adolescents three years later
３．学会等名 Tsukuba Global Scientific Week Conference (Tsukuba)（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 荒川博美、安梅勅江
２．発表標題 認知症サポーターの地域での活動意欲を高めるための介護体験学習プログラムの有用性の検討
３．学会等名 保健福祉学会（山梨）
４．発表年 2019年

１．発表者名 渡邊 久実，酒寄学，宇留野功一,宇留野光子，安梅勅江
２．発表標題 経済連携協定（EPA）によるフィリピン人 介護福祉士候補者エンパワメントに関する質的分析： 多文化共生社会に向けて
３．学会等名 保健福祉学会(山梨）（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 田中笑子、冨崎悦子、渡邉多恵子、安梅勅江
２．発表標題 エンパワメント.アプローチによる多職種連携プログラムの開発と評価生涯発達の観点から
３．学会等名 保健福祉学会(山梨)
４．発表年 2019年

１．発表者名 渡邊久実、田中笑子、渡邉多恵子、澤田優子、丹羽一絵、奥村咲、奥村理加、伊藤澄雄、安梅勅江
２．発表標題 潜在クラス分析による高齢者の社会関係の特徴と生命予後との関連
３．学会等名 日本公衆衛生学会　（高知）
４．発表年 2019年

１．発表者名 厚澤博美、田中笑子、渡邊久実、安梅勅江
２．発表標題 新人看護師の精神的健康維持を目指した支援に関する質的研究
３．学会等名 日本公衆衛生学会（高知）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Tokie Anme
２．発表標題 Bridge between Science and Practice for Childcare and education: Using the Cloud Computing-Based Support System and Longitudinal Cohort Study
３．学会等名 2019 Asian Forum on Children's Development in the New Era (Shang Hai)（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Yoshioka A, Koike T, Nakagawa E, Sumiya M, Sadato N, Tanabe HC
２．発表標題 Neural substrates of sharing preference between interactive two persons: a hyperscanning fMRI study.
３．学会等名 OHBM2019 Annual Meeting（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 岡沢秀彦、伊藤浩、野上宗伸
２．発表標題 画像による脳の老化と神経変性発症過程の解明
３．学会等名 第62回日本脳循環代謝学会学術集会（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 森哲也、長沼陽二、橋本裕輝、岩隈佳寿子、島村真衣、清野泰、岡沢秀彦、脇厚生
２．発表標題 PET薬剤製造施設の衛生管理レベルに応じた、過酸化水素ガスによる微生物除去法の開発
３．学会等名 第59回日本核医学会学術総会
４．発表年 2019年

１．発表者名 岡沢秀彦
２．発表標題 PET/MRIの標準的撮像法の確立と定量性評価
３．学会等名 第59回日本核医学会学術総会（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Makino A, Mori T, Okazawa H, Kiyono Y
２．発表標題 Preparation and evaluation of biodegradable polymer micelle for brachytherapy
３．学会等名 32nd Annual Congress of the European Association of Nuclear Medicine（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 岡沢秀彦、辻川哲也、森哲也、牧野顕、清野泰
２．発表標題 福井から世界へ ～分子イメージング最前線～
３．学会等名 第118回日本医学物理学会学術大会（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 岡沢秀彦
２．発表標題 脳神経系の核医学診断：最近の話題
３．学会等名 日本核医学会 第89回中部地方会（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Okazawa H
２．発表標題 Quantitative brain PET/MRI imaging and its clinical application
３．学会等名 Brain PET 2019 (The 14th International Conference on Quantification of Brain Function with PET)（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Kiyono Y, Mori T, Asai T, Okazawa H.
２．発表標題 EVALUATION OF RADIOBROMINE-LABELED (SS)-BPBM FOR IMAGING OF THE BRAIN NOREPINEPHRINE TRANSPORTER
３．学会等名 Brain PET 2019 (The 14th International Conference on Quantification of Brain Function with PET)（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Okazawa H, Tsujikawa T, Higashino Y, Mori T, Makino A, Kiyono Y.
２．発表標題 Comparison of MR attenuation correction methods using CT-atlas vs. zero-TE on quantitative H2150-PET/MRI
３．学会等名 Brain PET 2019 (The 14th International Conference on Quantification of Brain Function with PET)（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Okazawa H, Tsujikawa T, Higashino Y, Mori T, Makino M, Kiyono Y.
２．発表標題 Comparison of MR attenuation correction using CT-atlas based vs. zero-TE on quantitative 15O-water PET/MRI
３．学会等名 The 66th Annual Meeting of Society of Nuclear Medicine and Molecular Imaging（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Okazawa H, Ikawa M, Tsujikawa T, Kosaka H.
２．発表標題 Brain PET/MRI for evaluation of neurodegenerative diseases
３．学会等名 The 13th Asia Oceania Congress of Nuclear Medicine and Biology（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 飯高哲也
２．発表標題 脳とこころ：ここまで見えるようになった精神神経疾患「精神疾患の脳内神経回路病態はここまで分かった」
３．学会等名 第30回日本医学会総会（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Maruyama S, Fukunaga M, Sadato N
２．発表標題 Visualization of subdivision of globus pallidus segments using 7T MRI: Comparison with 3T.
３．学会等名 ISMRM Workshop on Ultrahigh Field Magnetic Resonance（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Sugawara SK, Nakayama Y, Hamano YH, Yamamoto T, Fukunaga M, Sadato N, Nihimura Y
２．発表標題 VTA is involved in both preparation and execution in motivated motor output.
３．学会等名 NCM2019（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Hamano YH, Sugawara SK, Yoshimoto T, and Sadato N
２．発表標題 The motor engramas a dynamic change of the cortical network during early sequence learning: an fMRI study.
３．学会等名 NCM2019（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Le Bihan D, Yamamoto T, Fukunaga M, Okada T, Sadato N
２．発表標題 A model free, sparse acquisition approach Sindex to investigate brain tissue microstructure from diffusion MRI data in the human brain.
３．学会等名 ISMRM 27th Annual Meeting & Exhibition（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Nakayama Y, Sugawara SK, Fukunaga M, Hamano YH, Sadato N, Nishimura Y
２．発表標題 Involvement of the Dorsal Premotor Cortex in Goal-directed Motor Behavior.
３．学会等名 25TH ANNUAL MEETING OF THE ORGANIZATION FOR HUMAN BRAIN MAPPING（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Sugawara SK, Nakayama Y, Fukunaga M, Yamamoto T, Sadato N, Nishimura Y
２．発表標題 VTA-M1 pathway contributes to human motivated motor outputs.
３．学会等名 25TH ANNUAL MEETING OF THE ORGANIZATION FOR HUMAN BRAIN MAPPING（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Miyata K, Koike T, Nakagawa E, Harada T, Sumiya M, Yamamoto T and Sadato N
２．発表標題 Two brains resonate with each other for sharing action in imitative interaction: A hyper-scanning fMRI study.
３．学会等名 Joint Action Meeting VIII（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Koyama K, Chikazoe J, Jimura K, Sadato N
２．発表標題 fMRI時系列の基底分解によるWhole Brain Decomposition.
３．学会等名 脳の自由エネルギー原理チュートリアル・ワークショップ
４．発表年 2019年

１．発表者名 Koyama K, Chikazoe J, Jimura K, Sadato N
２．発表標題 fMRI時系列の基底分解によるWhole Brain Decomposition.
３．学会等名 認知神経科学の先端
４．発表年 2019年

１．発表者名 Hayashi T, Koike S, Okada T, Fukunaga M, Togo H, Miyazaki A, Ose T, Uematsu A, Saotome K, Matsuda T, Sadato N, Okamoto Y, Tanaka SC, Hanakawa T, Kasai K, Kawato M
２．発表標題 Harmonized Brain MRI Protocols/Preprocessing for Brain/MINDS-beyond.
３．学会等名 The 3rd Japanese Meeting for Human Brain Imaging
４．発表年 2019年

１．発表者名 Hamano Y, Sugawara SK, Fukunaga M, Sadato N
２．発表標題 M1 integrates the distinct motor engrams for motor sequence learning.
３．学会等名 The 3rd Japanese Meeting for Human Brain Imaging
４．発表年 2019年

１．発表者名 山下典生，佐々木真理，武田航太，松田豪，上野育子，森太志，朴啓彰，福永雅喜，定藤規弘，帆秋伸彦
２．発表標題 3D ファントムを用いた頭部 MR 画像の幾何歪み・信号むらの同時補正法の開発.
３．学会等名 第3回ヒト脳イメージング研究会
４．発表年 2019年

１．発表者名 小池進介，植松明子，岡田知久，福永雅喜，早乙女康作，東口大樹，宮崎淳，合瀬恭幸，定藤規弘，松田哲也，田中沙織，川人光男，岡本泰昌，花川隆，笠井清登，林拓也，国際脳WG
２．発表標題 AMED「国際脳」調和プロトコル策定とトラベリングサブジェクトプロジェクト計画.
３．学会等名 第3回ヒト脳イメージング研究会
４．発表年 2019年

１．発表者名 Koyama K, Chikazoe J, Jimura K, Sadato N
２．発表標題 Semi-model free analysis of the whole brain activity captures temporal changes of cognitive processes.
３．学会等名 The 3rd Japanese Meeting for Human Brain Imaging
４．発表年 2019年

１．発表者名 Pham TQ, Chikazoe J, Yoshimoto T, Niwa H, Sadato N
２．発表標題 Novel insight into the neural basis of vision-value conversion in human brain.
３．学会等名 第3回ヒト脳イメージング研究会
４．発表年 2019年

１．発表者名 梅田雅宏，福永雅喜，定藤規弘，渡辺康晴，河合裕子，村瀬智一，樋口敏宏
２．発表標題 7T-MR装置を用いたCSIによる脳の代謝物計測.
３．学会等名 第47回日本磁気共鳴医学会大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 丸山修紀，福永雅喜，定藤規弘
２．発表標題 7T MRIを用いたヒト淡蒼球内部構造の描出: 3T MRIとの比較.
３．学会等名 第47回日本磁気共鳴医学会
４．発表年 2019年

１．発表者名 Sadato N
２．発表標題 Understanding the neural basis of psychiatric disease and implications for stigma:Neuroethical issues of Brain/MINDS project of Japan.
３．学会等名 IBRO Neuroethics Luncheon "No longer Unthinkable: Why the 21st Century Neuroscientists needs Neuroethics" IBRO Congress（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Koyama K, Chikazoe J, Jimura K, Sadato N
２．発表標題 Whole Brain Decomposition captures transient changes of cognitive processes.
３．学会等名 視覚・認知脳機能研究の先端
４．発表年 2019年

１．発表者名 Sadato N
２．発表標題 To what extent can human attributes be modelled?
３．学会等名 Global Neuroethics Summit 2019（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Koyama Y, Chikazoe J, Jimura K, Sadato N
２．発表標題 Semi-model free analysis of whole brain activity captures dynamics of cognitive processes.
３．学会等名 NTBS Workshop 2019（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Sadato N
２．発表標題 To what extent can human attributes be modelled?
３．学会等名 The 2019 International Neuroethics Society Annual Meeting（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Sadato N
２．発表標題 Across-brain networks emerged from face-to-face social interactions probed by hyperscanning fMRI: eye-contact, joint attention, and its memory.
３．学会等名 Society for Social Neuroscience 2019 Annual Meeting（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Harada T, Sugawara T, Fukunaga M, Sadato N, Kaureys S, Sakai H
２．発表標題 Morphological misalignment of vestibular organs predicts motion sickness susceptibility.
３．学会等名 Neuroscience 2019（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Hamano YH, Sugawara SK, Fukunaga M, Sadato N
２．発表標題 The integrative role of the M1 for the motor sequence learning.
３．学会等名 Neuroscience 2019（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Sadato N
２．発表標題 Across-brain networks emerged from face-to-face social interactions probed by hyperscanning fMRI: eye-contact, joint attention, and its memory.
３．学会等名 McGill University- NIPS Joint Symposium（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Koyama Y, Chikazoe J, Jimura K, Sadato N
２．発表標題 Paradigm free decomposition for whole brain dynamics.
３．学会等名 Brain Storming on Primate Connectome(HCP)（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Sadato N
２．発表標題 Across-brain networks emerged from face-to-face social interactions probed by hyperscanning fMRI: eye-contact, joint attention, and its memory.
３．学会等名 Tubingen University- Beijin-University-NIPS Joint Symposium（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Koyama Y, Chikazoe J, Jimura K, Sadato N
２．発表標題 Paradigm free decomposition for whole brain dynamics.
３．学会等名 2019年度生理研研究会第9回社会神経科学研究会
４．発表年 2019年

１．発表者名 Koyama Y, Chikazoe J, Jimura K, Sadato N
２．発表標題 Semi-model free analysis of whole brain activity captures dynamics of cognitive processes.
３．学会等名 次世代脳プロジェクト冬のシンポジウム2019
４．発表年 2019年

１．発表者名 Itakura S
２．発表標題 From whom do infants learn?-Developmental Cybernetics view-
３．学会等名 19th European Conference of Developmetal Psychology（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Iidaka T, Kogata T, Mano Y
２．発表標題 Network analysis of resting-state fMRI from a multi-site database: A comparison between autism spectrum disorder patients and control subjects
３．学会等名 Annual Meeting of the Society for Neuroscience（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Iidaka T, Kogata T, Mano Y
２．発表標題 Thalamocortical and Corticocortical Hyperconnectivity in Autism Spectrum Disorder: A Resting State fMRI Study
３．学会等名 Annual Meeting of the Organization of Human Brain Mapping（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Tokie Anme
２．発表標題 Community Empowerment with “Dynamic Synergy Model”
３．学会等名 Systems Sciences for Health Social Services (Sweden, Jonkoping) （招待講演）（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 安梅 勅江、延原　弘章
２．発表標題 アクションリサーチを活用した当事者主体の共創によるエンパワメント
３．学会等名 公衆衛生学会（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 澤田　優子、田中　笑子、渡邊　久実、渡辺　多恵子、河西　敏幸、伊藤　澄雄、奥村　理加 、安梅 勅江
２．発表標題 学童期の主観的体力リスク低減と育児環境との関連
３．学会等名 公衆衛生学会
４．発表年 2018年

１．発表者名 渡辺　多恵子、田中　笑子、 冨崎　悦子、 澤田　優子、 渡邊　久実、安梅 勅江
２．発表標題 育児状況の18年間の推移と子ども虐待リスクと関係する要因の検討
３．学会等名 公衆衛生学会
４．発表年 2018年

１．発表者名 冨崎　悦子、渡辺　多恵子、田中　笑子、澤田　優子、 安梅　勅江
２．発表標題 養育者が子どもをたたく要因の検討
３．学会等名 公衆衛生学会
４．発表年 2018年

１．発表者名 坪田　彩、田中　笑子、安梅，勅江
２．発表標題 ウガンダ人医療従事者の労働意欲をエンパワメントする要因ーFGIを用いた質的研究
３．学会等名 公衆衛生学会
４．発表年 2018年

１．発表者名 田中　笑子、冨崎　悦子、渡辺　多恵子、渡邊　久実、澤田　優子、年野　朋美、坪田　彩、厚澤　博美、伊藤　澄雄、奥村　理加、安梅　勅江
２．発表標題 社会的かかわりが子どもの社会適応に及ぼす影響：18年間のコホート研究に基づく検証
３．学会等名 公衆衛生学会
４．発表年 2018年

１．発表者名 渡邊　久実、田中　笑子、年野　朋美、坪田　彩、厚澤　博美、渡辺　多恵子、奥村　理加、伊藤　澄雄、安梅 勅江
２．発表標題 高齢者への生活支援サービス展開に向けたニーズ把握
３．学会等名 公衆衛生学会
４．発表年 2018年

１．発表者名 年野　朋美、田中　笑子、厚澤　博美、渡邊　久実、渡辺　多恵子、伊藤　澄雄、奥村　理加、安梅 勅江
２．発表標題 社会とのかかわりが防災活動参加に及ぼす影響
３．学会等名 公衆衛生学会
４．発表年 2018年

１．発表者名 荒川　博美、安梅，勅江
２．発表標題 認知症サポーター上級講座参加者の活動実態と活動意欲
３．学会等名 公衆衛生学会
４．発表年 2018年

１．発表者名 Tokie Anme
２．発表標題 Community Empowerment: Inclusive Model
３．学会等名 Immigration and Society (USA, St.Louis) （招待講演）（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Jung M, Mizuno Y, Fujisawa TX, Takiguchi S, Kosaka H, Tomoda A.
２．発表標題 Machine learning and imaging genetics approach to ADHD
３．学会等名 The 7th World Congress of Asian Psychiatry 2019（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Jung M, Fujioka T, Kosaka H.
２．発表標題 Structural connectivity and resting-state brain activity of the lateral occipital cortex impact social communication deficit in boys with autism spectrum disorder?
３．学会等名 The 7th World Congress of Asian Psychiatry 2019（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Okazawa H
２．発表標題 New Frontiers of Fusion Images in Neuroimaging
３．学会等名 第76回日本医学放射線学会総会
４．発表年 2018年

１．発表者名 Rahman M, Islam M, Tsujikawa T, Sugimoto K, Okazawa H
２．発表標題 Count-based method for specific binding ratio calculation in [I-123]FP-CIT SPECT analysis
３．学会等名 The 12th World Congress of the World Federation of Nuclear Medicine and Biology (WFNMB 2018)（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 岡沢秀彦
２．発表標題 ハイブリッド型PET/MRIで何が見えるのか －最先端画像の臨床活用法－
３．学会等名 第97回福井県医学会総会（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Rahman M, Islam M, Tsujikawa T, Kiyono Y, Okazawa H
２．発表標題 A new method for [123I]FP-CIT specific binding ratio estimation in evaluation of striatal function.
３．学会等名 The 65th Annual Meeting of The Society of Nuclear Medicine
４．発表年 2018年

１．発表者名 岡沢秀彦
２．発表標題 最新型ハイブリッドPET/MRI画像の基礎と臨床応用
３．学会等名 第35回日本ハイパーサーミア学会（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 岡沢秀彦
２．発表標題 PETによる生体イメージング
３．学会等名 第27回バイオイメージング学会学術集会
４．発表年 2018年

１．発表者名 岡沢秀彦、伊藤浩、野上宗伸
２．発表標題 画像による脳の老化と神経変性発症過程の解明
３．学会等名 第61回日本脳循環代謝学会学術集会
４．発表年 2018年

１．発表者名 岡沢秀彦
２．発表標題 PET/MRIで実現する脳機能画像の最前線
３．学会等名 第63回兵庫県核医学研究会（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 岡沢秀彦
２．発表標題 PET/MRI検査の基礎と臨床的有用性
３．学会等名 第59回日本核医学会総会
４．発表年 2018年

１．発表者名 岡沢秀彦、伊藤浩、野上宗伸
２．発表標題 PET/MRIの標準的撮像法の確立と定量性評価
３．学会等名 第59回日本核医学会総会
４．発表年 2018年

１．発表者名 岡沢秀彦
２．発表標題 PET/MRIの臨床的有用性：悪性腫瘍と神経変性疾患への応用
３．学会等名 第32回九州PET研究会（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 岡沢秀彦
２．発表標題 PET／MRIを用いた脳機能イメージング
３．学会等名 第23回ニューロイメージングカンファレンス（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 岡沢秀彦
２．発表標題 PET/MRIで健康チェック
３．学会等名 福井大学ホームカミングデイ（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 田邊宏樹
２．発表標題 好みの神経基盤
３．学会等名 日本心理学会第82回大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 吉岡歩，田邊宏樹
２．発表標題 二者の好みの表明に関する神経基盤の検討：二者同時計測機能的MRIを用いた研究
３．学会等名 日本心理学会第82回大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 田邊宏樹
２．発表標題 言語運用、コミュニケーション活動、障がいと脳
３．学会等名 ことばの科学会25周年記念大会（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Yoshioka A, Tanabe HC
２．発表標題 Neural basis of subjective preference congruity: a hyperscanning functional MRI.
３．学会等名 DFG 4th Workshop Technical issues related to real-time social interaction phenomena（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Yoshimoto T, Chikazoe J, Sadato N
２．発表標題 Adaptive identity representations in the orbitofrontal cortex revealed by multivoxelpattern analysis.
３．学会等名 The Joint Research Area Meeting Scientific Research on Innovative Areas: “Artificial Intelligence and Brain Science” and “Adaptive Circuit Shift”
４．発表年 2018年

１．発表者名 Kasai C, Sumiya M, Koike T, Yoshimoto T, Aoki N, Sadato N
２．発表標題 Neural underpinning of the Japanese case particle processing on non-native speakers.
３．学会等名 OHBM 2018 Annual Meeting（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Miyata K, Oboshi Y, Koike T, and Sadato N
２．発表標題 The imagination of self-relevant emotional events activates rostral anterior cingulate cortex.
３．学会等名 OHBM 2018 Annual Meeting（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Nakagawa E, Koike T, Sumiya M and Sadato N
２．発表標題 The neural correlates of semantic and grammatical encoding during sentence production in a second language: evidence from a fMRI study using syntactic priming
３．学会等名 OHBM 2018 Annual Meeting（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Sumiya M, Koike T, Nakagawa E, Sadato N
２．発表標題 Neural bases of social feedback contingent on own performance.
３．学会等名 OHBM 2018 Annual Meeting（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Sugawara SK, Fukunaga M, Glasser MF, Yamamoto T, Hamano YH, Sadato N
２．発表標題 The relationship between digit areas and myelin distribution in human primary somatosensory cortex.
３．学会等名 OHBM 2018 Annual Meeting（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Nakagawa E, Koike T, Sumiya M and Sadato N
２．発表標題 The neural correlates of semantic and grammatical encoding during sentence production in a second language: evidence from a fMRI study using syntactic priming.
３．学会等名 BrainConnects 2018（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Sugawara SK, Fukunaga M, Glasser MF, Yamamoto T, Hamano YH, Sadato N
２．発表標題 Myelin distribution reflects digit representations in human S1: 7T-MRI study.
３．学会等名 BrainConnects 2018（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Sumiya M, Koike T, Nakagawa E, Sadato N
２．発表標題 Neural bases of social feedback contingent on own performance.
３．学会等名 BrainConnects2018（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Sugawara SK, Fukunaga M, Hamano YH, Yoshimoto T, Sadato N
２．発表標題 Motor engram is encoded in dormant neuronal network.
３．学会等名 FENS2018（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 當山峰道，福永雅喜，山口玲欧奈，山本哲也，定藤規弘，伊佐正
２．発表標題 麻酔下サル安静時fMRIの再現性検討.
３．学会等名 第41回日本神経科学大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 宮田紘平，小池耕彦，中川恵理，原田宗子，角谷基文，定藤規弘
２．発表標題 被模倣に伴う快感情には前帯状皮質吻側部が関与する.
３．学会等名 第５回COI夏の研究会
４．発表年 2018年

１．発表者名 Sugawara SK, Fukunaga M, Glasser MF, Yamamoto T, Hamano YH, Sadato N
２．発表標題 Myelin distribution reflects digit representations in human S1: 7T-MRI study.
３．学会等名 NIPS-ARIHHP共同ワークショップ
４．発表年 2018年

１．発表者名 Sumiya M, Nakagawa E, Koike T, Sadato N
２．発表標題 Neural bases of social feedback contingent on own performance.
３．学会等名 ヒューマン・ハイ・パフォーマンスの実現を目指した次世代健康スポーツ科学と神経科学の融合・統合.
４．発表年 2018年

１．発表者名 Miyata K, Koike T, Nakagawa E, Harada T, Sumiya M and Sadato N
２．発表標題 Neural correlates underlying the recognition of being imitated.
３．学会等名 第２回NIPS-ARIHHP共同ワークショップ，ヒューマン・ハイ・パフォーマンスの実現を目指した次世代健康スポーツ科学と神経科学の融合・統合
４．発表年 2018年

１．発表者名 菅原翔，福永雅喜，Glasser MF，山本哲也，濱野有希，定藤規弘
２．発表標題 感覚運動皮質における手指領域とミエリン密度分布の関連性.
３．学会等名 第12回Motor Control研究会
４．発表年 2018年

１．発表者名 丸山修紀，福永雅喜，菅原翔，定藤規弘
２．発表標題 超高磁場7テスラMRI装置を用いた個人脳計測における皮質下微細構造の同定.
３．学会等名 第12回Motor Control研究会
４．発表年 2018年

１．発表者名 Miyata K, Yamamoto T, Koike T, Sugawara SK, Fukunaga M, Sadato N
２．発表標題 Neural correlates with temporal pediction during auditory-motor synchronization.
３．学会等名 第2回ヒト脳イメージング研究会
４．発表年 2018年

１．発表者名 Sugawara SK, Fukunaga M, Hamano YH, Yoshimoto T, Sadato N
２．発表標題 Motor engram is encoded in dormant neuronal network.
３．学会等名 第2回ヒト脳イメージング研究会
４．発表年 2018年

１．発表者名 Yamamoto T, Miura K, Fukunaga M & Sadato N
２．発表標題 Homology of functional cortical areas related to pursuit eye movements and heavily myelinated regions in each human individual.
３．学会等名 第46回日本磁気共鳴医学会大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 Sugawara SK, Fukunaga M, Glasser MF, Yamamoto T, Hamano YH, Sadato N
２．発表標題 The relationship between digit areas and myelin distribution in human primary somatosensory cortex.
３．学会等名 BrainStorming2018（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Nakagawa E, Koike T, Sumiya M Shimada K, Makita K, Yoshida H, Yokokawa H, and Sadato N
２．発表標題 The neural correlates of semantic and grammatical encoding during sentence production in a second language: evidence from a fMRI study using syntactic priming.
３．学会等名 第8回生理学研究所・名古屋大学医学系研究科合同シンポジウム
４．発表年 2018年

１．発表者名 Sumiya M, Nakagawa E, Koike T, Sadato N
２．発表標題 Neural bases of social feedback contingent on own performance.
３．学会等名 第8回生理学研究所・名古屋大学医学系研究科合同シンポジウム
４．発表年 2018年

１．発表者名 近添淳一, Quang Trung Pham, 吉本隆明, 丹羽開紀, 定藤規弘
２．発表標題 深層学習と機能的 MRI の融合により明らかにされた視覚価値変換処理の神経基盤.
３．学会等名 第8回生理研・名大医合同シンポジウム
４．発表年 2018年

１．発表者名 Chikazoe J, Pham QT, Yoshimoto T, Niwa H, Sadato N
２．発表標題 How and where is vision transformed to value?: A combinatory study of fMRI and deep learning.
３．学会等名 CIN-NIPS Symposium 2018（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Fukunaga M, Tohyama T, Yamaguchi R, Yamamoto T, Yoshida M, Isa T, Sadato N
２．発表標題 Resting State fMRI Analysis of Anesthetized Monkey Brain.
３．学会等名 CIN-NIPS Symposium 2018（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 定藤規弘
２．発表標題 交感神経活動の脳内ネットワーク.
３．学会等名 第71回日本自律神経学会総会（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 定藤規弘
２．発表標題 脳科学と進化ーサピエンスからネアンデルタールまでー.
３．学会等名 総合研究大学院大学創立30周年記念シンポジウム「人類はどこへ向かうのか」（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Sato H, Numata T, Asa Y, Koike T, Miyata K, Nakagawa E, Sumiya M, Sadato N
２．発表標題 An fMRI investigation on the positive consequences of being imitated by a virtual non-human agent.
３．学会等名 Neuroscience 2018（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Ogino Y, Kawamichi H, Takizawa D, Sugawara SK, Hamano YH, Fukunaga M, Watanabe Y, Toyoda K, Abe O, Sadato N, Saito S, Furui S
２．発表標題 Enhanced functional connectivity correlated with weight-loss at pre-match period in professional.
３．学会等名 Neuroscience 2018（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 定藤規弘、菅原翔、山本哲也、福永雅喜
２．発表標題 7TMRIを用いたヒト神経回路解析.
３．学会等名 革新脳第二回分科会
４．発表年 2018年

１．発表者名 丸山修紀，福永雅喜，定藤規弘
２．発表標題 Visualization of external and internal globus pallidus at 7T MRI.
３．学会等名 SOKENDAI Life Science Retreat 2018
４．発表年 2018年

１．発表者名 Shishido E, Koike T, Okazaki S, Itoh Y, Imoto K, Sadato N, Ozaki N and Fukumura N
２．発表標題 Prediction of hand speed by eye movement when humans trace a line.
３．学会等名 The 49th NIPS International Symposium（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Sugawara SK, Nakayama Y, Fukunaga M, Yamamoto T, Sadato N*, Nihimura Y* *corresponding authors
２．発表標題 VTA-M1 pathway controbutes to human motivated motor output.
３．学会等名 次世代脳プロジェクト冬のシンポジウム2018
４．発表年 2018年

１．発表者名 近添淳一, Quang Trung Pham, 吉本隆明, 丹羽開紀, 定藤規弘
２．発表標題 深層学習と機能的 MRI の融合により明らかにされた視覚価値変換処理の神経基盤.
３．学会等名 次世代脳プロジェクト冬のシンポジウム2018
４．発表年 2018年

１．発表者名 Sugawara SK, Fukunaga M, Hamano YH, Yoshimoto T, Sadato N
２．発表標題 Motor engram is encoded in dormant neuronal network.
３．学会等名 3rd Annual meeting of ISMRM Japanese Chapter
４．発表年 2018年

１．発表者名 Sugawara SK, Nakayama Y, Fukunaga M, Yamamoto T, Sadato N*, Nihimura Y* *corresponding authors
２．発表標題 VTA-M1 pathway controbutes to human motivated motor output.
３．学会等名 脳と心のメカニズム第19回冬のワークショップ
４．発表年 2019年

１．発表者名 定藤規弘
２．発表標題 対面による社会的相互作用に伴う脳を超えたネットワークの形成：二個体同時計測fMRI研究.
３．学会等名 第35回日本脳電磁図トポグラフィ研究会（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 山本哲也，三浦健一郎，福永雅喜，定藤規弘
２．発表標題 追跡眼球運動に関わるヒト脳領域と高髄鞘化領域の個人・集団レベルでの相同性.
３．学会等名 日本視覚学会2019年冬季大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 Yamamoto T, Miura K, Fukunaga M, Sadato N
２．発表標題 Homology of functional cortical areas related to pursuit eye movements and heavily myelinated regions at individual and group levels in humans.
３．学会等名 The 11th NAGOYA Global Retreat
４．発表年 2019年

１．発表者名 板倉昭二
２．発表標題 共感する心を科学する
３．学会等名 日本心理学会第82回大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 Itakura, S.
２．発表標題 Mind in nonhuman agent- Developmental Cybernetics -
３．学会等名 Free University of Berlin, Psychology Seminar（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Itakura, S.
２．発表標題 Children’s understanding of agency- Developmental Cybernetics view -
３．学会等名 Hong Kong University, Psychology Seminar（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Takaaki Yoshimoto, Norihiro Sadato
２．発表標題 State-dependent and -independent representations of food revealed by multi voxel pattern analysis.
３．学会等名 Yonsei-Korea-NIPS Symposium（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Lana Kaiser, Ben Inglis, Hirokazu Kawaguchi, Masaki Fukunaga, Norihiro Sadato, Tomohisa Okada
２．発表標題 Glucose Tolerance Test in the Human Brain: 1H MRS study at 7 Tesla.
３．学会等名 ISMRM 25th Annual Meeting & Exhibition（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 福永雅喜，山本哲也，定藤規弘
２．発表標題 7TMRIを用いたヒト神経回路解明にむけた画像取得･解析技術の研究開発 - ヒト7T diffusion MRI -.
３．学会等名 革新脳 MRIWG 会議
４．発表年 2017年

１．発表者名 宍戸恵美子，福村直博，定藤規弘，井本敬二，尾崎紀夫
２．発表標題 ヒト描画時の目と手の運動におけるジャーク最小モデルとの類似点.
３．学会等名 第40回日本神経科学大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 吉本隆明，近添淳一，岡崎俊太郎，角谷基文，高橋晴香，中川恵理，小池耕彦，北田亮，岡本士毅，小阪浩隆，中田正範，矢田俊彦，定藤規弘
２．発表標題 多ボクセルパターン解析で明らかになった状態依存および非依存の食品の表象. State-dependent and -independent food representations revealed by multivoxel pattern analysis.
３．学会等名 第40回日本神経科学大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 Sadato N
２．発表標題 Across-brain networks emerged from face-to-face social interactions probed by hyperscanning fMRI.
３．学会等名 RIKEN Symposium on Brain Health, Sociality and Evolution（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Emiko Shishido, Norio Ozaki, Keiji Imoto, Norihiro Sadato, Naohiro Fukumura
２．発表標題 Eye movement as action prediction when humans trace a line.
３．学会等名 第11回Motor Control研究会
４．発表年 2017年

１．発表者名 菅原翔，福永雅喜，山本哲也，濱野友希，西東倫太郎，定藤規弘
２．発表標題 個人の体性感覚皮質における指表彰の描出：7T-fMRI研究.
３．学会等名 第45回日本磁気共鳴医学会
４．発表年 2017年

１．発表者名 Yamamoto T, Sugawara SK, Hamano Y, Fukunaga M & Sadato N
２．発表標題 Application of “HCP Pipelines” to 7T fMRI.
３．学会等名 The 45th Annual Meeting of the Japanese Society of Magnetic Resonance in Medicine
４．発表年 2017年

１．発表者名 當山峰道，福永雅喜，山本哲也，伊佐正，定藤規弘
２．発表標題 麻酔下サル安静時fMRIの個体内再現性の検討.
３．学会等名 第45回日本磁気共鳴医学会大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 Sadato N
２．発表標題 The role of the right inferior frontal gyrus in joint Attentionrelated identification with the partner probed by hyper-scanning fMRI.
３．学会等名 Yamada Symposium on “Neuroimaging of Natural Behaviors”（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Sho K. Sugawara, Masaki Fukunaga, Yuki H. Hamano, Tetsuya Yamamoto, Rintaro Saito, Norihiro Sadato
２．発表標題 Digit representations in individual primary somatosensory cortex: 7T-fMRI study.
３．学会等名 2017 Minnesota Workshop on High and Ultra-high Field Imaging and Traning Courses（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Sadato N
２．発表標題 Across-brain networks emerged from face-to-face social interactions probed by hyper-scanning fMRI.
３．学会等名 TRANSLATION, INTERACTION AND CONTEXT CROSS-DISCIPLINARY PERSPECTIVES（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Koike T, Tanabe CH, Adachi-Abe S, Nakagawa E, Okazaki S, Sasaki TA, Shimada K, Sugawara KS, Takahashi KH, Yoshihara K, Sadato N
２．発表標題 Why and how inter-individual neural synchronization occur by joint attention? Inter-individual neural network-level Hebbian learning account.
３．学会等名 Society for Neuroscience 2017（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 定藤規弘，福永雅喜，山本哲也，菅原 翔
２．発表標題 7T MRI を用いたヒト神経回路解明にむけた画像取得・解析技術の研究開発.
３．学会等名 革新脳第２回分科会
４．発表年 2017年

１．発表者名 Takaaki Yoshimoto, Junichi Chikazoe, Shuntaro Okazaki, Motofumi Sumiya, Haruka Takahashi, Eri Nakagawa, Takahiko Koike, Ryo Kitada, Norihiro Sadato
２．発表標題 Internal state-dependent and -independent representational networks.
３．学会等名 the 44th Naito Conference
４．発表年 2017年

１．発表者名 Yuki H. Hamano, Sho K. Sugawara, Norihiro Sadato
２．発表標題 Motor engram as dynamic change of the cortical network during early sequence learning: an fMRI study.
３．学会等名 Society for Neuroscience 2017（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Takaaki Yoshimoto, J.Chikazoe, S.Okazaki, S.Motofumi, H.K.Takahashi, E.Nakagawa, T.Koike, R.Kitada, S.Okamoto, M.Nakata, H.Kosaka, T.Yada, N.Sadato
２．発表標題 Abstractness of value representation in orbitofrontal cortex.
３．学会等名 Society for Neuroscience 2017（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Takaaki Yoshimoto, J.Chikazoe, S.Okazaki, S.Motofumi, H.K.Takahashi, E.Nakagawa, T.Koike, R.Kitada, S.Okamoto, M.Nakata, H.Kosaka, T.Yada, N.Sadato
２．発表標題 Abstractness of object representation in orbitofrontal cortex.
３．学会等名 生理学研究所研究会「脳の階層的理解を目指して」
４．発表年 2017年

１．発表者名 Sho K. Sugawara, Masaki Fukunaga, Yuki H. Hamano, Tetsuya Yamamoto, Rintaro Saito, Norihiro Sadato
２．発表標題 Individual digit representations in primary somatosensory cortex: 7T-fMRI study.
３．学会等名 The 7th NIPS / CIN Joint Symposium（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Sumiya M, Okamoto Y, Koike T, Tanigawa T, Kimura Y, Okazawa H, Kosaka H, Sadato N
２．発表標題 People with autism spectrum disorder experience less pleasure through social action-outcome contigency.
３．学会等名 Interactive Eye Gaze（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Sho K. Sugawara, Masaki Fukunaga, Matthew F. Glasser, Tetsuya Yamamoto, Yuki H. Hamano, Norihiro Sadato
２．発表標題 The relationship between digit areas and myelin distribution in human primary somatosensory cortex.
３．学会等名 ISMRM Japanese Chapter 2018
４．発表年 2018年

１．発表者名 Sadato N
２．発表標題 The motor engram as a dynamic change of the cortical network during early sequence learning: an fMRI study.
３．学会等名 Human High Performance-oriented Sports Neuroscience by Integrating Basic Neuroscience（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Sho k. Sugawara, Masaki Fukunaga, Tetsuya Yamamoto, Yuki Hamano, Norihiro Sadato
２．発表標題 The relationship between finger areas and myelin distribution in human S1.
３．学会等名 Human High Performance-oriented Sports Neuroscience by Integrating Basic Neuroscience（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 山本哲也，菅原翔，濱野友希，福永雅喜，定藤規弘
２．発表標題 HCP パイプラインによる7T fMRI の時空間双方向のアーチファクト低減の効果に関する検討.
３．学会等名 第20回日本ヒト脳機能マッピング学会
４．発表年 2018年

１．発表者名 菅原翔，福永雅喜，Matthew F. Glasser，山本哲也，濱野友希，定藤規弘
２．発表標題 The association between finger areas and myelin distribution in human S1.
３．学会等名 第７回新潟脳研-霊長研-生理研合同シンポジウム
４．発表年 2018年

１．発表者名 菅原翔，福永雅喜，Matthew F. Glasser，山本哲也，濱野友希，定藤規弘
２．発表標題 The association between finger areas and myelin distribution in human S1.
３．学会等名 第７回新潟脳研-霊長研-生理研合同シンポジウム
４．発表年 2018年

１．発表者名 Tokie Anme
２．発表標題 SOCIAL INTERACTION, SOCIAL TIES, AND LONGEVITY IN A COMMUNITY-DWELLING SAMPLE IN JAPAN
３．学会等名 International federation of Aging（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Emiko Tanaka, Etsuko Tomisaki, Taeko Watanabe, Kumi Watanabe, Tokie Anme
２．発表標題 Changes in childrearing environment and prevention of maltreatment for pre-school children: Evidence from the 15 years Cohort Study
３．学会等名 World Conference of Epidimioligy（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Etsuko Tomisaki, Yoko Onda, Emiko Tanaka,Taeko Watanabe, Maki Hirano, Ryoji Shinohara, Tokie Anme
２．発表標題 Monitoring of children’s development
３．学会等名 World Conference of Epidimioligy（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 佐野千尋、渡邊久実、渡辺多恵子、澤田優子、田中笑子、伊藤澄雄、奥村理加、安梅勅江
２．発表標題 成人期の生活満足感に影響を与える社会とのかかわりについて
３．学会等名 第28回公衆衛生学会総会
４．発表年 2017年

１．発表者名 Okazawa H, Tsujikawa T, Higashino Y, Arishima H, Mori T, Kiyono Y, Kikuta K
２．発表標題 Measurement of cerebral blood flow with H2150 PET/MRI.
３．学会等名 Brain/Brain PET 2017; International Symposium on Cerebral Blood Flow, Metabolism and Function（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Okazawa H, Higashino Y, Tsujikawa T, Mori T, Arishima H, Kiyono Y, Kikuta K
２．発表標題 Measurement of cerebral blood flow using H2150 PET/MRI with a noninvasive method.
３．学会等名 The 64st Annual Meeting of The Society of Nuclear Medicine and Molecular Imaging（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 岡沢秀彦、辻川哲也、森哲也、清野泰
２．発表標題 O-15水PET/MRIによる脳血流量の定量: Measurement of cerebral blood flow with O-15 water PET/MR study.
３．学会等名 第76回日本医学放射線学会総会
４．発表年 2017年

１．発表者名 岡沢秀彦
２．発表標題 PET/MRIの精神神経疾患への応用 －次世代型脳機能画像－
３．学会等名 第19回静岡脳精神イメージング研究会（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 岡沢秀彦
２．発表標題 脳分子イメージングとPET/MRIの脳外科領域への応用
３．学会等名 第18回日本分子脳神経外科学会（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 岡沢秀彦、及川広志、辻川哲也、森哲也、牧野顕、清野泰
２．発表標題 PET/MRI定量評価のための動脈カウントキャリブレーション法の検討
３．学会等名 第57回日本核医学会総会
４．発表年 2017年

１．発表者名 井川 正道，岡沢 秀彦，辻川 哲也，森 哲也，清野 泰，米田 誠
２．発表標題 アルツハイマー病患者における64Cu-ATSM PET酸化ストレスイメージング
３．学会等名 第57回日本核医学会総会
４．発表年 2017年

１．発表者名 岡沢秀彦、Rahman MGM，Islam MM，辻川哲也、清野泰
２．発表標題 FP-CIT SPECTにおける半定量法の検討
３．学会等名 第60回日本脳循環代謝学会学術集会
４．発表年 2017年

１．発表者名 岡沢秀彦
２．発表標題 最新型PET/MRIの特徴と臨床での使用経験 －がんと脳疾患への応用－
３．学会等名 第35回北京都RI懇話会（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Komeda H, Kosaka H, Okazawa H.
２．発表標題 Empathy and helping behaviors in narrative comprehension: Comparison between adults with autism spectrum disorder and typically developing adults
３．学会等名 27th Annual Meeting of the Society for Text & Discourse（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Jung M, Kosaka H, Kong J.
２．発表標題 Structural connectivity and resting-state brain activity of the lateral occipital cortex impact social communication deficit in boys with autism spectrum disorder
３．学会等名 International Autism Conference Tokyo 2017（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Jung M, Kosaka H, Kong J.
２．発表標題 Surfaced based shared and distinct resting functional connectivity between attention-deficit/hyperactivity disorder and autism spectrum disorder
３．学会等名 International Autism Conference Tokyo 2017（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Fujioka T, Mizuno Y, Takiguchi S, Fujisawa TX, Tsuchiya KJ, Katayama T, Tomoda A, Hiratani M, Kosaka H.
２．発表標題 Attention to eye in still face strongly related to sociality compared to other social information in children with Autism Spectrum Disorder.
３．学会等名 American Academy of Child and Adolescent Psychiatry 64th Annual Meeting（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Tanabe HC
２．発表標題 Neural underpinnings of mutual gaze and joint attention using hyperscanning functional MRI.
３．学会等名 OHBM 2017 Annual Meeting（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 田邊宏樹
２．発表標題 行動・モデル・脳表現
３．学会等名 日本心理学会第81回大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 田邊宏樹
２．発表標題 脳機能イメージングとモデル構築 Dynamic Causal Modellingを中心に
３．学会等名 第41回日本神経心理学会学術集会（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 板倉昭二
２．発表標題 発達初期の生体リズム・同期と社会的認知の発達
３．学会等名 日本発達神経科学学会第6回学術集会（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Itakura, S.
２．発表標題 Minds in no-human agent-Developmental Cybernetics.
３．学会等名 Invited talk at the Milan Catholic University.（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Itakura S.
２．発表標題 Minds in no-human agent-Developmental Cybernetics.
３．学会等名 Invited talk at the University of Neuchatel（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Itakura,S.
２．発表標題 From whom do infants learn?-Developmental Cybernetics view-
３．学会等名 Invited talk at British Psychological Society- Developmental Section Conference（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Itakura, S.
２．発表標題 Children's understanding of agency-Developmental Cybernetics view-
３．学会等名 Invited talk at UK-Japan psychological seminar at Lancaster University（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Itakura, S.
２．発表標題 Pro-social behavior in young infants: Fairness, helping, and empathy.
３．学会等名 Invitede talk at The 3rd International Symposium on Child Developmental Science.（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Itakura, S.
２．発表標題 Minds in no-human agent-Developmental Cybernetics.
３．学会等名 Invited talk at the Peking University（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Iidaka T, Kogata T, Bagarinao E
２．発表標題 Effects of global signal regression and head movement on connectivity analysis using resting state functional magnetic resonance imaging.
３．学会等名 Annual Meeting of the Society for Neuroscience（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Iidaka T, Kogata T, Bagarinao E
２．発表標題 Classification of Resting-state fMRI in Autism and Control Subjects Using a Support Vector Machine
３．学会等名 Annual Meeting of Organization for Human Brain Mapping（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Tokie Anme, Etsuko Tomisaki, Emiko Tanaka, Taeko Watanabe,
２．発表標題 Long hours in center-based care and the health of second-grade children: A longitudinal study
３．学会等名 International stress and behavior nueroscience and biopsychiatry conference（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Tokie Anme, Emiko Tanaka, Taeko Watanabe, Etsuko Tomisaki
２．発表標題 Parent-chilf interactions and child social competence logitudinal evidence using the interaction rating scale (IRS)
３．学会等名 International Congress of Psychology（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 田中笑子、渡辺多恵子、冨崎悦子、渡邊久実、伊藤澄雄、奥村理加、安梅勅江
２．発表標題 学童期の精神的健康に関連する要因の検討―コホートデータを用いて―
３．学会等名 第75回日本公衆衛生学会総会
４．発表年 2016年

１．発表者名 岡沢秀彦
２．発表標題 Signa PET/MRの有用性と問題点
３．学会等名 日本脳神経核医学研究会 脳PETワークショップ
４．発表年 2016年

１．発表者名 Islam MM, Tsujikawa T, Mori T, Kiyono Y, Okazawa H.
２．発表標題 Clinical benefits of precise delay correction for CBF measurement in O-15 water PET study.
３．学会等名 The 63th Annual Meeting of the Society of Nuclear Medicine and Molecular Imaging（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 岡沢秀彦
２．発表標題 PET/MRIハイブリッドイメージングの技術と臨床的有用性
３．学会等名 PETサマーセミナー2016 in 熊本
４．発表年 2016年

１．発表者名 岡沢秀彦
２．発表標題 脳神経核医学の基礎：脳血流SPECT以外(教育講演)
３．学会等名 第52回日本医学放射線学会秋季臨床大会
４．発表年 2016年

１．発表者名 Islam MM, Tsujikawa T, Mori T, Kiyono Y, Okazawa H.
２．発表標題 Estimation of noninvasive arterial input in brain O-15 water PET study.
３．学会等名 第56回日本核医学会学術総会
４．発表年 2016年

１．発表者名 岡沢秀彦
２．発表標題 PET/MRIによる画像革命： 基礎と脳神経疾患への応用
３．学会等名 第5回 New Clear Imaging Conference
４．発表年 2017年

１．発表者名 Okamoto Y, Kitada R, Arai S, Kochiyama T, Ishikawa S, Sadato N, Okazawa H, Kosaka H.
２．発表標題 Distinct neural representation of perspective of hand in the lateral occipito-temporal cortex.
３．学会等名 The 39th annual meeting of the Japan neuroscience society
４．発表年 2016年

１．発表者名 Okamoto Y, Kosaka H, Kitada R, Seki A, Tanabe HC, Hayashi MJ, Kochiyama T, Saito DN, Yanaka HT, Munesue T, Ishitobi M, Omori M, Wada Y, Okazawa H, Koeda T, Sadato N.
２．発表標題 Altered maturation of the fusiform face area and the extrastriate body area for individuals with autism spectrum disorders.
３．学会等名 Society for Neuriscience（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Tanabe HC, Yoshioka A, Koike T, Nakagawa E, Sumiya M, Okazaki S, Sadato N
２．発表標題 Neural substrates of feature-based joint attention: a hyperscanning functional MRI study.
３．学会等名 Human Brain Mapping 2016 Conference（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Tanabe HC, Yoshioka A, Koike T, Okazaki S, Sadato N
２．発表標題 Core neural substrates of joint attention using hyperscanning functional MRI.
３．学会等名 International Congress of Psychology 2016（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Yoshioka A, Tanabe HC, Koike T, Okazaki S, Nakagawa E, Sumiya M, Sadato N
２．発表標題 The neural substrates of feature-based joint attention: A hyperscanning functional MRI study.
３．学会等名 International Congress of Psychology 2016（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Ishikawa M, Itakura S, Tanabe HC
２．発表標題 Effects of autistic traits and the context use on social cognitions: A mediation analysis.
３．学会等名 International Congress of Psychology 2016（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Yoshioka A, Koike T, Nakagawa E, Sumiya M, Okazaki S, Sadato N, Tanabe HC
２．発表標題 Common neural substrates of initiator and responder in spatial and feature-based joint attention: a hyperscanning fMRI study.
３．学会等名 Society for Neuroscience 2016 Annual Meeting（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 田邊宏樹
２．発表標題 ヒト脳機能イメージング研究の新たな潮流
３．学会等名 第34回日本生理心理学会大会
４．発表年 2016年

１．発表者名 田邊宏樹
２．発表標題 間主観性と脳科学 －二人称視点脳機能イメージング研究－
３．学会等名 国立障害者リハビリテーションセンター平成28年度言語聴覚士研修会
４．発表年 2016年

１．発表者名 田邊宏樹
２．発表標題 ことばの発達と脳の働きを学ぶ;進んできた小脳研究：発達における脳の役割
３．学会等名 大阪医科大学LDセンター講演会
４．発表年 2016年

１．発表者名 Itakura, S., Imada, T., & Carlson, S.
２．発表標題 East-West Cultural Differences in Context-Sensitivity Are Evident in Early Childhood
３．学会等名 24th Biennial Meeting of the International Society for the Study of Behavioural Development（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Itakura, S.
２．発表標題 Developmental Cybernetics: Infant Perceptions of Nonhuman Agents
３．学会等名 The 31st International Congress of Psychology（国際学会）
４．発表年 2016年

1．発表者名 Itakura, S., & Okumura, Y.
2．発表標題 The cognitive studies of eye gaze
3．学会等名 The 31st International Congress of Psychology（国際学会）
4．発表年 2016年

1．発表者名 Okanda, M., & Itakura, S.
2．発表標題 Understanding violations of Gricean maxims in typically developing preshoolers and adults
3．学会等名 The 31st International Congress of Psychology（国際学会）
4．発表年 2016年

1．発表者名 Koster, M., Itakura, S., & Koster, J.
2．発表標題 The role of maternal scaffolding during task assignment in the early ontogeny of helping behavior: A cross-cultural perspective.
3．学会等名 International Conference of Infant Study（国際学会）
4．発表年 2016年

1．発表者名 Koster, m., Itakura, S., & Kartner, J.
2．発表標題 Infants understanding of other's needs as a universal precoursor of early helping behavior. Symposium "Cognitive and motivational understandings of early helping behavior
3．学会等名 International Conference of Infant Study（国際学会）
4．発表年 2016年

１．発表者名 Furuhata, N., Sato, A., & Itakura, S.
２．発表標題 The development of joint action coordination with parent in young children
３．学会等名 The 31st International Congress of Psychology（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Yamamoto, H., Sato, A., & Itakura, S.
２．発表標題 Development of daily gaze communication between infant and mother
３．学会等名 The 31st International Congress of Psychology（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Fukunaga M, Sadato N
２．発表標題 Ultra High Field MRI of Human Brain Structure and Function.
３．学会等名 The 75th Annual Meeting of the Japan Radiological Society（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Sugawara S, Fukunaga M, Hamano Y, Kuribayashi H, Sadato N
２．発表標題 Ultra High Field MRI of Human Brain Structure and Function.
３．学会等名 The 75th Annual Meeting of the Japan Radiological Society（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Nakagawa E, Makita K, Shimada K & Sadato N
２．発表標題 Gray matter volume in the caudate nucleus is related to second language fluency: a VBM study.
３．学会等名 OHBM 2016 Annual Meeting（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Kawamichi H, Sugawara SK, Hamano YH, Sadato N
２．発表標題 High frequency of social interaction is perceived as social reward represented in the ventral striatum.
３．学会等名 The 39th Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society
４．発表年 2016年

１．発表者名 Koike T, Abe S, Bosch-Bayard J, Sadato N
２．発表標題 Neural basis of sharing attention during eye contact : Hyperscanning fMRI study.
３．学会等名 The 39th Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society
４．発表年 2016年

１．発表者名 近添 淳一, Lee H Daniel, 定藤 規弘, Adam K Anderson
２．発表標題 味覚の神経基盤. Neural correlates of taste in the human brain.
３．学会等名 第39回日本神経科学大会
４．発表年 2016年

１．発表者名 Sadato N
２．発表標題 Neural substrates of face-to-face communication through eyes : an approach with hyperscanning fMRI.
３．学会等名 The 39th Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society（招待講演）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Shishido E, Okazaki S, Imoto K, Sadato N, Fukumura N, Ozaki N
２．発表標題 Analysis of eye-movement when drawing a line.
３．学会等名 The 39th Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society
４．発表年 2016年

１．発表者名 Nagashima K, Aizawa Y, Tsunakawa M, Nakata H, Harada T, Sadato N
２．発表標題 Brain regions involved in thermal perception.
３．学会等名 The 39th Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society
４．発表年 2016年

１．発表者名 Sadato N
２．発表標題 Shared attention and inter-individual neural synchronization in the human right inferior frontal gyrus.
３．学会等名 The 31st International Congress of Psychology（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 定藤規弘
２．発表標題 コミュニケーション能力の神経基盤：イメージング手法によるアプローチ.
３．学会等名 第25回日本バイオイメージング学会学術集会 公開シンポジウム　分子から心まで観るバイオイメージング（招待講演）
４．発表年 2016年

１．発表者名 定藤規弘
２．発表標題 子どもの育ちに活かすほめ脳科学からのアプローチ.
３．学会等名 みらいエンパワメントカフェ（招待講演）
４．発表年 2016年

１．発表者名 定藤規弘
２．発表標題 コミュニケーション能力の神経基盤：イメージング手法によるアプローチ.
３．学会等名 医用画像と物理シュミレーションの融合による電磁界の医療応用と安全性評価技術の最新動向（招待講演）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Sugawara SK, Hamano YH, Sadato N
２．発表標題 Reactivation of declarative memory system is essential for the enhancement of the sequential motor skill.
３．学会等名 Society for Neuroscience's 46st Annual Meeting（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Hamano YH, Sugawara SK, Sadato N
２．発表標題 Dynamic change of the parieto-premotor network during early motor sequence learning: an fMRI study.
３．学会等名 Society for Neuroscience's 46st Annual Meeting（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 濱野友希，菅原翔，定藤規弘
２．発表標題 ヒト系列運動学習における皮質－皮質下構造の役割　機能的MRI研究.
３．学会等名 第19回日本ヒト脳機能マッピング学会
４．発表年 2017年

１．発表者名 菅原翔，濱野友希，定藤規弘
２．発表標題 系列運動技能の定着に対する宣言的記憶システムの関与.
３．学会等名 第19回日本ヒト脳機能マッピング学会（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 定藤規弘
２．発表標題 脳機能解剖の多次元解析：PET・機能的MRIによるアプローチ 機能地図からネットワーク解析へ
３．学会等名 第35回日本脳神経外科コングレス総会（招待講演）
４．発表年 2015年

１．発表者名 Tanabe H, Koike T, Okazaki S, Sadato N
２．発表標題 Common and cue-specific neural substrates of joint attention: a hyperscanning functional MRI study
３．学会等名 OHBM2015 Annual Meeting（国際学会）
４．発表年 2015年

１．発表者名 Koike T, Nakagawa E, Sumiya M, Shuntaro O, Sadato N
２．発表標題 The cerebellar-thalamic area represents the shared perceptual activity during real-time eye contact
３．学会等名 OHBM2015 Annual Meeting（国際学会）
４．発表年 2015年

１．発表者名 Rajaei N, Kitada R, Aoki N, Takahashi HK, Miyaoka T, Ohka M, Sadato N
２．発表標題 The brain network underlying the velvet hand illusion: An fMRI study
３．学会等名 The 21st Annual Meeting of Organization for Human Brain Mapping（国際学会）
４．発表年 2015年

１．発表者名 Sadato N
２．発表標題 Development of Social Cognition: Functional Neuroimaging Approach
３．学会等名 RIKEN Molecular Imaging Seminar（招待講演）
４．発表年 2015年

１．発表者名 島田浩二，Hirotani M，中川恵理，牧田快，濱野友希，岡崎俊太郎，Fox J，定藤規弘
２．発表標題 外国語産出能力の習熟過程に関わる大脳基底核の脳活動の可塑的変化
３．学会等名 第17回日本ヒト脳機能マッピング学会
４．発表年 2015年

１．発表者名 宍戸恵美子，山崎拳一郎，伊藤竜樹，伊藤嘉邦，岡崎俊太郎，井本敬二，定藤規弘，福村直博，尾崎紀夫
２．発表標題 線をなぞるときの目と腕の協調運動で書道家はどこを見ているか
３．学会等名 第38回日本神経科学大会
４．発表年 2015年

１．発表者名 Yuki H. Hamano, Sho K. Sugawara, Hideaki Yamazaki-Kindaichi, Naoya Aoki, Takaaki Yoshimoto, and Norihiro Sadato
２．発表標題 Both primary motor area and striatum hold the memory of the sequential motor skill during the early training stage
３．学会等名 38th Annual meeting of Japan Neuroscience Society
４．発表年 2015年

１．発表者名 Koike T, Tanabe H, Okazaki S, Sadato N
２．発表標題 Neural substrates of initiating and responding to joint attention: a hyperscanning fMRI study
３．学会等名 38th Annual meeting of Japan Neuroscience Society
４．発表年 2015年

１．発表者名 Eri NAKAGAWA, Takahiko KOIKE, Kai MAKITA, Koji SHIMADA, Haruyo YOSHIDA, Hirokazu YOKOKAWA and Norihiro SADATO
２．発表標題 The neural substrates of syntactic processing by second language learners: Evidence from syntactic priming
３．学会等名 38th Annual meeting of Japan Neuroscience Society
４．発表年 2015年

１．発表者名 岡崎俊太郎，廣谷昌子，小池耕彦，高橋陽香，定藤 規弘
２．発表標題 無意識の社会的相互作用における視覚体動フィードバックシステムを定量化する
３．学会等名 第38回日本神経科学大会
４．発表年 2015年

１．発表者名 Tanabe H,Koike T, Okazaki S, Sadato N
２．発表標題 Verbal-cued joint attention: a hyperscanning fMRI study
３．学会等名 38th Annual meeting of Japan Neuroscience Society
４．発表年 2015年

１．発表者名 菅原翔，福永雅喜，小池耕彦，濱野友希，滝沢修，定藤規弘
２．発表標題 Multi-band GE-EPI法を用いた脳機能イメージングにおける最適パラメータの検討
３．学会等名 第43回日本磁気共鳴医学会大会
４．発表年 2015年

１．発表者名 Yuki H. Hamano, Sho K. Sugawara, Hideaki Yamazaki-Kindaichi, Naoya Aoki, Takaaki Yoshimoto, and Norihiro Sadato
２．発表標題 Neural substrates of sequential motor skill in the early training stage: an fMRI study
３．学会等名 COI夏の研究会
４．発表年 2015年

１．発表者名 定藤規弘
２．発表標題 MRIから迫る脳科学Overview
３．学会等名 第43回日本磁気共鳴医学会大会（招待講演）
４．発表年 2015年

１．発表者名 福永雅喜，定藤規弘
２．発表標題 超高磁場MRIでせまる脳の構造と機能
３．学会等名 第43回日本磁気共鳴医学会大会（招待講演）
４．発表年 2015年

１．発表者名 小池耕彦，中川恵理，角谷基文，岡崎俊太郎，定藤規弘
２．発表標題 みつめあい状態における社会的随伴性の神経基盤：.Hyperscanning fMRIを用いた研究
３．学会等名 日本認知科学会第32回大会
４．発表年 2015年

１．発表者名 Emiko SHISHIDO, Shuntaro OKAZAKI, Yoshikuni ITOH, Keiji IMOTO, Norihiro SADATO, Norio OZAKI, Naohiro FUKUMURA
２．発表標題 How the eye moves when humans trace a line
３．学会等名 名古屋大学-生理学研究所合同Symposium
４．発表年 2015年

１．発表者名 高橋陽香，北田亮，佐々木章宏，川道拓東，岡崎俊太郎，河内山隆紀，定藤規弘
２．発表標題 他者の感情推定時における涙と顔表情の統合に関わる神経基盤
３．学会等名 名古屋大学・生理学研究所合同シンポジウム
４．発表年 2015年

１．発表者名 定藤規弘
２．発表標題 私たち」の脳科学へ向けて 2個体同時計測fMRIによるアプローチ
３．学会等名 第45回日本神経精神薬理学会･第37回日本生物学的精神医学会合同年会（招待講演）
４．発表年 2015年

１．発表者名 定藤規弘
２．発表標題 間主観性（inter-subjectivity）の脳的基盤
３．学会等名 第38回日本精神病理学会（招待講演）
４．発表年 2015年

１．発表者名 Naoya AOKI, Sho K. SUGAWARA, Masako HIROTANI, Shuntaro OKAZAKI, Hideaki YAMAZAKI-KINDAICHI, Takaaki YOSHIMOTO, Hirokazu YOKOKAWA, Haruyo YOSHIDA, and Norihiro SADATO
２．発表標題 The enhanced consolidation of foreign word learning by overt pronunciation
３．学会等名 the 45th annual meeting of the Society for Neuroscience（国際学会）
４．発表年 2015年

１．発表者名 Sumiya, M., Koike, T., Okazaki, S., Kitada, R., & Sadato, N
２．発表標題 A rewarding nature of conversation: an fMRI study on the contingency between own action and positive outcome
３．学会等名 he 45th annual meeting of the Society for Neuroscience（国際学会）
４．発表年 2015年

１．発表者名 Sumiya, M., Koike, T., Okazaki, S., Kitada, R., & Sadato, N
２．発表標題 Brain networks underlying the contingency effect between own actions and positive outcome in conversation: an functional MRI study
３．学会等名 The 5th Tubingen University/NIPS Joint Neuroscience Symposium（国際学会）
４．発表年 2015年

１．発表者名 Yoshimoto T, Okazaki S, Sumiya M, Takahashi H, Nakagawa E, Koike T, Kitada R & Sadato N
２．発表標題 Neural substrates underlying the anorexigenic effect of intranasal oxytocin in humans
３．学会等名 生命科学リトリート2015
４．発表年 2016年

１．発表者名 Naoya AOKI, Sho K. SUGAWARA, Masako HIROTANI, Shuntaro OKAZAKI, Hideaki YAMAZAKI-KINDAICHI, Takaaki YOSHIMOTO, Hirokazu YOKOKAWA, Haruyo YOSHIDA and Norihiro SADATO
２．発表標題 The Enhanced Consolidation of Foreign Word Learning by Verbal Rehearsal
３．学会等名 名古屋グローバルリトリート
４．発表年 2016年

１．発表者名 定藤規弘，福永雅喜
２．発表標題 7TMRIを用いたヒト神経回路解明に向けて
３．学会等名 第18回日本ヒト脳機能マッピング学会
４．発表年 2016年

１．発表者名 岡本悠子，小坂浩隆，北田亮，関あゆみ，田邊宏樹，林正道，河内山隆紀，齋藤大輔，谷中久和，棟居俊夫，石飛信，大森晶夫，和田有司，岡沢秀彦，小枝達也，定藤規弘
２．発表標題 自閉スペクトラム症における顔認知・身体認知に関与する視覚領域の発達遅延
３．学会等名 第18回日本ヒト脳機能マッピング学会
４．発表年 2016年

１．発表者名 田邊宏樹
２．発表標題 社会脳研究の新たな視点：二人のfMRI同時計測によるアプローチ
３．学会等名 「大会シンポジウム：ヒト脳イメージング研究の最前線」日本心理学会第79回大会
４．発表年 2015年

１．発表者名 板倉昭二
２．発表標題 乳児の発達からわかること
３．学会等名 日本赤ちゃん学会第15回学術集会（向社会行動の発達　日本赤ちゃん学会シンポジウム）（招待講演）
４．発表年 2015年

１．発表者名 板倉昭二
２．発表標題 感情と社会性の発達
３．学会等名 日本感情心理学会第23回大会（乳児の向社会行動と感情　日本感情心理学会第23回大会　シンポジウム）（招待講演）
４．発表年 2015年

１．発表者名 Itakura, S
２．発表標題 From whom do infants learn? -Comparative pedagogical agent study-
３．学会等名 The Second International Symposium on Early Childhood and Developmental Neuroscience（招待講演）
４．発表年 2015年

１．発表者名 Hyodo, M., Itakura, S., Kitazaki, M
２．発表標題 Equality in distributive justice to virtual characters.
３．学会等名 The 2015 International Conference on Advanced Information: Concepts, Theory, and Application (ICAICTA 2015),（国際学会）
４．発表年 2015年

１．発表者名 Emiko Tanaka, Zyu Zyu, Taeko Watanabe, Etsuko Tomisaki, Bailiang Wu, and Tokie Anme
２．発表標題 The Relationship between Parental Stress and Child-Rearing Behaviors: Using the Cloud Computing-Based Support System for Comprehensive Childcare
３．学会等名 World Engineering Conference and Convention（国際学会）
４．発表年 2015年

〔図書〕　計17件

１．著者名 Tokie Anme	４．発行年 2019年
２．出版社 Nova Science Publications	５．総ページ数 194
３．書名 Creating Empowerment in Commnitiess:Theory and Practice from an International Perspective	

１．著者名 安梅勅江	４．発行年 2019年
２．出版社 日本評論社	５．総ページ数 264
３．書名 子どもの未来をひらく　エンパワメント科学	

１．著者名 定藤規弘	４．発行年 2019年
２．出版社 日本評論社	５．総ページ数 264（担当：68-97）
３．書名 子どもの未来をひらくエンパワーメント科学（安梅勅江編著）／子どもを「ほめ」て育てるということー脳科学からのアプローチ	

１．著者名 童連(編)、安梅勅江（編）	４．発行年 2017年
２．出版社 復旦大学出版社	５．総ページ数 －
３．書名 0～6歳児童　心理行為発展の評価	

１．著者名 米田　誠，井川　正道，岡沢　秀彦	４．発行年 2017年
２．出版社 メディカルドゥ	５．総ページ数 161（担当76-78）
３．書名 脳内環境辞典	

１．著者名 田中笑子、安梅勅江	４．発行年 2017年
２．出版社 診断と治療社	５．総ページ数 156
３．書名 「育てにくさ」の理解と支援－健やか親子21(第2次)の重点課題に向けて－第2章3節　④（ｐ80－81）	

１．著者名 Tokie Anme, et.al.	４．発行年 2018年
２．出版社 Japan Pediatric Publication	５．総ページ数 50
３．書名 "Empowerment Sciences for Professionals Enhance Inclusion and A World of Possibilities"	

１．著者名 岡沢秀彦	４．発行年 2017年
２．出版社 三輪書店	５．総ページ数 259（担当39-42）
３．書名 "『プライム脳神経外科２ 脳虚血』(監修: 木内博之、斉藤延人）第II章 脳虚血の画像診断　3.核医学 02 PET"	

１．著者名 岡沢秀彦	４．発行年 2017年
２．出版社 金原出版	５．総ページ数 300（担当215-221, 244-247）
３．書名 "核医学融合画像　基礎と臨床（監修：西村恒彦）「６．脳核医学における臨床　３PET/MRI」"	

１．著者名 Bruner E, Ogihara N, Tanabe HC (Eds.)	４．発行年 2018年
２．出版社 Springer Tokyo	５．総ページ数 289
３．書名 Digital Endocasts: From Skulls to Brains.	

１．著者名 Tokie Annme (Editor: Kristen Alvarez)	４．発行年 2016年
２．出版社 Nova Science Publishers	５．総ページ数 209
３．書名 Parent-Child Interactions and Relationships Chapter11: Parent-Child interactions and child social competence: longitudinal evidence using the interaction rating scale(IRS)	

１．著者名 NHK「すくすく子育て」制作班、安梅勅江	４．発行年 2016年
２．出版社 新星出版社	５．総ページ数 215
３．書名 "「すくすく子育て」愛情が伝わる！叱り方ほめ方 “ 認める ”ことで自信がつく！子どもを伸ばすほめ方 50, 51, 52, 54"	

１．著者名 Anme T (Editor:Randall Harris)	４．発行年 2016年
２．出版社 Nova Science Publishers	５．総ページ数 163
３．書名 Empowerment: Cross-Cultural Perspectives, Strategies and Psychological Benefits Chapter1: New Empowernment Model on practical strategies for wellbeing	

１．著者名 井川正道、岡沢秀彦、米田誠	４．発行年 2017年
２．出版社 中外医学社	５．総ページ数 281(担当：87-93)
３．書名 Annual Review 神経 2017「５．神経変性疾患の酸化ストレスイメージング」	

１．著者名 Sadato N (Editor: Masataka Watanabe)	４．発行年 2017年
２．出版社 Springer	５．総ページ数 276（担当：207-225）
３．書名 The Prefrontal Cortex as an Executive, Emotional, and Social Brain. Shared attention and interindividual neural synchronization in the human right inferior frontal cortex.	

１．著者名 田邊宏樹	４．発行年 2015年
２．出版社 新曜社 東京	５．総ページ数 328
３．書名 「脳機能イメージング」榊原洋一、米田英嗣（編）「発達科学ハンドブック８ 脳の発達科学」	

１．著者名 内田伸子・板倉昭二（編著）	４．発行年 2016年
２．出版社 誠信書房	５．総ページ数 206
３．書名 高校生のための心理学講座	

〔産業財産権〕

〔その他〕

最近のリリース一覧
http://www.nips.ac.jp/release/

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	安梅　勅江 (Annme Tokie) (20201907)	筑波大学・医学医療系・教授 (12102)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	田邊　宏樹 (Tanabe Hiroki) (20414021)	名古屋大学・情報学研究科・教授 (13901)	
研究分担者	板倉　昭二 (Itakura Shoji) (50211735)	同志社大学・研究開発推進機構・教授 (34310)	
研究分担者	岡沢　秀彦 (Okazawa Hidehiko) (50360813)	福井大学・高エネルギー医学研究センター・教授 (13401)	
研究分担者	飯高　哲也 (Iidaka Tetsuya) (70324366)	名古屋大学・脳とこころの研究センター・教授 (13901)	
研究分担者	小坂　浩隆 (Kosaka Hirotaka) (70401966)	福井大学・学術研究院医学系部門・教授 (13401)	
研究分担者	小枝　達也 (Koeda Tatsuya) (70225390)	国立研究開発法人国立成育医療研究センター・こころの診療部・部長 (82612)	削除：平成28年8月24日